世界選手権（第四回男子七人制）参加にあたって

日本ハンドボール協会会長
全日本団長

第四回世界ハンドボール室内選手権大会は三月ドイツで開かれることになり、わが協会も招請をうけて、参加することになった。長い夢がいよいよ実現することができてうれしい。いままでにドイツとルーマニアのハンドボールチームを招き、やがて世界の檜舞台への出場の日を期して準備しつつあったわが協会としては、このよい機会に初出場する光栄をになったことを心からよろこびたい。しかも予選なしに出場を認められたことはわれわれの実力を認めてくれた結果であって、長年の努力が報いられた証左ともいえよう。

しかもこのたびは、日独友好百年の記念すべき年にあたりわがチームが日本のスポーツ界を代表してその祝賀と親善使節の大任をになうことになった。この意義深い使命をおびていよいよ二月十七日に渡欧することになった。

高松宮殿下と観戦する式場団長（室内大会で）

世界選手権大会では、全力をつくして戦う決意をもって、万全の準備をすすめてきた。この機会にドイツはもとより、各国のハンドボール競技の現状を調査し、親善試合をしたいので、かねての計画の一部を実現する運びとなった。まずフランスでそれをやり、ドイツでの正式試合のあと、チェコその他にも行くことになった。

諸先輩によってわが国にハンドボールがはいってからすでに三十年、協会が結成されて二十五年になる。戦後の普及と向上はめざましいものがある。しかしここにまた大きな飛躍をみることになろう。

このたびは室内の選手権大会ではあるが、やがてフィールドの大会にも参加する機会を得たいし、女子チームの参加も計画したい。これからは年々世界各国との交流がいっそう盛んになると思うが、東京オリンピックのあとで日本で世界選手権大会が開ける可能性もでてきた。

なにぶん初めての海外遠征であり、不馴れな点もあっていろいろ案じられることもないではない。あまり緊張しすぎて実力の発揮できないことのないよう十分注意するつもりだ。この晴れの門出を祝って全国各地の熱烈な応援を感謝している。ご期待にそうよう全力をつくして使命の達成につくす決心である。重ねて全国的な御支援に心からの感謝を捧げたい。

（一九六一年二月五日あさ、大阪での壮行試合をおえて帰京の車中にて）

初の遠征

第四回 男子 七人制世界選手権出場特集

第四回男子七人制世界選手権大会はいよいよ三月一日から十二日まで西ドイツの各地で開かれる。すでに第一次予選リーグを終り、一日から行なうのは第二次リーグである。第一次予選リーグで残ったのは7チーム、前回優勝のスエーデンをはじめアイスランド、ドイツ、ブラジル、日本が第二次リーグから出場し、12チームをA、B、C、Dの四グループに分けてリーグ戦を行ない、各グループの上位二チームが決勝リーグ、さらに順位決定戦に進出する。日本はCグループに属し、ルーマニア、チエコと対戦する。

▽……日本の海外遠征はもちろん、世界選手権も初めてのことである。日本国内での国際試合は昭和十三年に当時のヒットラー・ユーゲントチームの来日を皮切りに同十五年在日ドイツ選抜チーム、十七年訪日ドイツ海軍チーム、戦後は三十一年に西独チーム、そして昨年ルーマニア（1959年世界選手権第二位＝十一人制）チームを迎えている。いままで五回の国際試合はやったが、日本ハンドボールチームが海外遠征したのはいままでなかった。三十四年に西独へ遠征するプランはあったが、西独の都合で中止となってしまった。それだけにこんどの遠征は球界はじまっていらいの大事業である。昨年ルーマニアとの国際試合で日本の実力を認められ、もし1961年の七人制世界選手権大会に出場するなら第二次リーグにシードするという連絡があった。そこで日本ハンドボール協会は世界選手権大会参加にふみ切り、昨年十一月から選考委員会を設けて人選にはいった。そのころは1964年の東京オリンピック大会にハンドボールが正式種目として話題にのぼり大いに張り切っていた。それが開催種目からはずされ、ハンドボールの行く道は世界選手権一本にまとまった。

▽……人選の結果、全日本の四タイトルを獲得した芝浦工大を主力に十四人の選手を選出することになった。遠征費用が一千万円以上のため大部異論も出たが、芝浦工大、大崎電気の協力があって話はスムーズに進んだ。その結果、芝浦工大系から八人、日体大系から二人、関学系から一人、関大から一人の計十四人を選抜した。選抜の基準は三十五年の全日本総合選手権をはじめ全日本というタイトルのつく大会で優秀な成績を収めたチーム、十一人制のあらゆる角度から技術的にすぐれている選手、七人制に出場しても十分働ける攻守両面の選手という理由が骨子となった。一部の役員のなかから「芝浦系が多い」と反対の声も出たが、すべては選考委員にまかされたのである。攻守両面で十分働ける選手、その点で服部（芝浦工大OB）、深江（関学OB）の選手はよかった。人選が終り合宿にはいった。一月四日から平塚体育館で、同二十八日から国立競技場のスポーツマンホテルで、第三次は二月九日から国立競技場でと三次にわたって行なわれた。この合宿は実に力のはいったもので十四人の選手が弱音を吐くほどであった。とにかく強化合宿にふさわしいもので大いに自信をつけた。（鷲尾）

× × × × ×

遠征スケジュール

（羽田発の時間以外はすべて現地時間）

2月17日（金）　22.00（日本時間）羽田発のエール・フランス機（北極回りパリ行きジェット機）
　9.40 アンカレッジ着
　10.40 アンカレッジ発
18日（土）　6.45 ハンブルグ着
　7.45 ハンブルグ発
　9.05 パリ着
19日（日）　フランス軍隊チームと試合（21日までパリに滞在）
22日（水）　リヨン選抜チーム（リヨン）
25日（土）　アルサス選抜チーム（ミュールーズ）
26日（日）　ローレーヌ選抜チーム（ティオンビル）
28日（火）　カールスルーエ（ドイツ）のシエーネック体育学校入り
3月1日～3月12日まで世界選手権大会（西ドイツ）
17日までドイツに滞在
18日　チエコに入国
19日　プラハで試合　対チエコ
21日　オストラバで試合
23日までチエコに滞在
24日～30日　フランスに滞在の予定
30日～4，6日　イスラエルに滞在の予定　11人制2,3試合の予定
4月7日　帰国

不利な国際経験の不足
日本チームはどこまでやるか

日本チームは果してどこまでやるだろう。これはだれでも抱く最大の関心事である。正直のところわからないというのが本音であろう。

なにしろ日本チームが海外、それも大本山の西ドイツに遠征するなど開びやくいらいのできごとである。戦後外国チームとの対戦は昭和三十一年の西ドイツ、昨年夏のルーマニアど二度しか経験していない。だから〝わからない〟といっても決して不勉強ではあるまい。しかもこんどの大会は七人制である。

七人制はもちろん本場の七人制がどんなスケールであるかということさえもわからない。

それだけに気が楽だといえないこともない。最初のリーグ戦で当たるチエコとルーマニアは、実のところ強敵である。クジ運は決してよいとはいえない。とくにチエコはポーランド、ルーマニアはソヴエトを破っての第二次リーグ進出である。高嶋監督は、「二勝して決勝リーグに絶対に出る。悪くても一勝は固い」といっている。これはルーマニアには「勝てる」と踏んでの胸算用からである。

ルーマニアに勝てるという根拠は、昨年夏の対全芝工大戦での善戦からの計算だと思う。果してその思惑通りに行くかどうか。七人制のキャリアが不足だということは見のがせない。フィールドでの善戦をそのまま換算することはいささか早計のように思う。

それに個々の選手の国際舞台での経験がケタ違い。これが心配のタネだ。日本チームではわずかに竹野が四回（西独3回、ルーマニア1回）、近藤が三回（西独2回、ル軍1回）というのが代表的なもの。

そこへいくとチエコにしろ、ルーマニアにしろ、その国際的キャリアは実に豊富である。

日本チームが西独のときやルーマニアのときにあるていど善戦できたのは、フランチャイズだという地の利があったからだ。式場団長を除くと全員初めての外国行き、日本チームの不利は多言を要しまい。高嶋監督のいう「決勝リーグ進出」ができればむしろ上出来ではないだろうか。

しかしそれでもよいと思う。日本のハンドボールチームが世界選手権に参加したということだけでも大変な意義がある。これを機にヨーロッパのハンドボール界に、日本ハンドボール界が改めて認識されたなら、それだけで大きなプラス。遠征の責任を果したといっていい。

日本選手が、初遠征の不利なハンデを克服して持てる力をフルに発揮し、最善をさえつくせば、それは〝勝利〟の戦果に決して劣るものではあるまい。成功を祈つてやまない。（黒尾）

日本、Cグループに出場
チエコ（3月1日）ルーマニア（3月2日）と対戦

▼第2次リーグ出場チーム

▽Aグループ＝スエーデン、ユーゴ、ブラジル

▽Bグループ＝ドイツ、フランス、オランダ

▽Cグループ＝日本、チエコ、ルーマニア

▽Dグループ＝デンマーク、スイス、アイスランド

▼第2次リーグ（Cグループ）

▽3月1日（水）

日本対チエコ戦（カールスルーエ）

▽3月2日（木）

日本対ルーマニア戦（フライブルク）

日本が決勝リーグ（第3次リーグ）に進出することになれば対戦スケジュールは次のようになる。

▼第2次リーグで2勝0敗のとき

▽3月5日（日）

Dグループの第2位チーム（スッツトガルト）

▽3月7日（火）

Bグループの第2位チーム（エッセン）

▽3月9日（木）

Aグループの第1位チーム（ベルリンかハンブルグ）

▼第2次リーグで1勝1敗のとき

▽3月5日（日）

Dグループの第1位チーム（ドルトムント）

▽3月7日（火）

Bグループの第1位チーム（クレヘルド）

▽3月9日（木）

Aグループの第2位チーム（ミュンスター）

▼順位決定戦

▽3月11日（土）三、四位決定戦（エッセン）五、六位決定戦（エッセン）

▽3月12日（日）一、二位決定戦。七、八位決定戦（ドルトムント）

「ハンドボール」

第五号目次

表紙写真＝世界選手権大会に出場する期待のエース近藤主将を中心に右は深江副主将、左はポイントゲッターの竹野選手

団長　式場隆三郎

監督　高嶋　洌

コーチ　松本　重雄

マネ　中沢重夫

役員　荒川　清美

芝浦勢を中心に総勢20人
遠征メンバーのプロフィール

張り切る医学博士
団長　式場隆三郎

〔横顔〕昭和21年、協会復活とともに協会会長に就任。ハンドボールチームの海外遠征は多年の夢であった。それだけに張切っている。医学博士（式場病院院長）として精神病理学に関する著書も多く、またゴッホの研究家としても高名である。なお、昭和28年9月外山准二氏（現協会参与）とともに国際ハンドボール連盟総会出席のため渡欧している。

〔略歴〕日本協会会長、式場病院長▽年令　62歳▽本籍　新潟県五泉市五泉町五千▽現住所　東京都渋谷区原宿二の一七〇の九

かつての名FW
監督　高嶋　洌

〔横顔〕ハンドボール界の実力第一人者。球歴26年、国際試合4回のベテラン。現役時代（日体）は名FWとしてスピード、強肩を誇っていた。東映の市川右太衛門によく似ている。協会理事長、東大体育教官、芝浦工大監督のほかにJOC委員もやり働きまくっている。ねばり強さもさることながら曲ったことが大きらいな男である。

〔略歴〕日本協会理事長、芝浦工業大学監督、東京大学教養学部教官▽出身校　長野県松本深志高校　日本体育大学▽年令　40歳▽本籍地　長野県南安曇郡梓川村大字倭二〇五二▽現住所　東京都世田谷区深沢町二の五五

多趣味の粋な青年
コーチ　松本　重雄

〔横顔〕戦後の名CFとしてあまりにも有名。戦前の名FW高嶋に匹敵する。球歴16年、国際試合2回を経験、荒川清美氏に次ぐ技術指導者のひとりである。通称「松ちゃん」で親しまれ如才ない男である。高校の先生とはちょっと思えない。謡曲、小唄、剣道六段、囲碁となんでもこなす粋な青年。

〔略歴〕日本協会常務理事、都立墨田川高校教官▽出身校　東京都立墨田川高校、東京教育大学▽年令　35歳▽本籍　東京都墨田区寺島町三ノ二二▽現住所本籍に同じ

バイトで優勝
マネージャー　中沢　重夫

〔横顔〕球歴13年、国際試合3回　上田松尾高校時代には逸話がたくさんある男。天文学が好きだったが、ハンドボールを始めたら天文学をやめてしまった。サッカーやラグビーのボールをハンドボールにつくり変えた。県大会に出場する費用をつくり出すため千曲川で砂利運びのアルバイトをやり、そして高校大会で優勝した。HBの名手。芝浦工大の合宿の寮長だったが、昨年十二月結婚した。

〔略歴〕日本協会常務理事、全日本学生並関東学生連盟理事長、芝浦工業大学教官▽出身校　長野県上田松尾高校、芝浦工業大学▽年令　30歳▽本籍地　長野県上田市大字上田五四九一▽現住所　東京都世田谷区深沢町三の六一

指導力では第一人者
役員（競技技術研究・審判技術担当）　荒川　清美

〔横顔〕技術面の指導力にかけては自他ともに許す第一人者。東京オリンピックの専門強化委員（専任コーチ）に推せんされたのは本誌先号で紹介ずみである。今回は直接勝敗の責任を持たず技術研究員として同行するのは同氏にとっても球界にとっても、大変なプラス。

〔略歴〕日本協会常務理事、日本体育大学教官▽出身校　日本体育大学▽年令　40歳▽本籍　福島県会津若松市湊町共和三七一▽現住所　東京都中野区新山通り二の三二

語学なら競技以上？
役員（大会運営研究・渉外事項担当）　境井　秀三

〔横顔〕色白の美青年。英語、フランス語がうまい。この人がハン

ドボールの選手だったかと思うほどスタイルのいい青年。東大時代はポイントゲッターだったとか。性格はきわめて温和、酒は好きらしい。彼の語学はハンドボール以上である。

〔略歴〕電々公社職員▽出身校 大阪山本高校、東京大学▽年令 28歳▽本籍 東京都港区赤坂伝馬町一の一〇▽現住所 東京都武蔵野市吉祥寺二七二先進寮内

一戦一戦全力つくす
主将FW 近藤 金博

〔横顔〕名門桜台高から芝工大に進み、今野らとともに芝工大黄金時代の基盤を固めた。CFとしてのそのシャープなプレーは第一人者。遠征軍の主将に選ばれている。西独、ルーマニヤと国際試合の経験もあり、遠征軍のリードマンとして重きをなそう。西独チームが来日したとき「日本で特に印象に残ったことは……」ときいたら「近藤が最もすぐれている」といっていたくらい。

〔抱負〕世界の強豪を相手にどのような戦績が得られるかどうかは見当がつきません。第二次予選で昨年来日したルーマニアとチェコと対戦しますが、一戦一戦全力をつくし日本代表の名に恥じないようにがんばります。

〔略歴〕芝浦工業大学教官▽出身校 名古屋市立桜台高校、芝浦工業大学▽年令 25歳▽本籍 愛知県愛知郡鳴海町字北浦一五▽現住所 東京都練馬区上石神井一の六八四 石黒哲郎方

定評がある巧技
副主将FB 深江幸次郎

〔横顔〕豊中高校時代HCとして活躍。その巧技は定評がある。関学時代はバックス、FWの両方をこなせる名手。十年余のキャリアによるリードマンシップもすぐれたものがある。遠征チームの副将として心技両面の力となろう。現在関学のコーチも兼ねている。

〔抱負〕ハンドボールマンにとってあこがれの檜舞台である世界選手権大会出場の名誉を与えられたことは、身に余まる光栄です。東京オリンピック種目の削除問題、初の世界選手権大会出場など、過渡期にあるときだけに、こんどの遠征の重大性は明白だと思います。相手が強豪ぞろいだけに勝敗をうんぬんする段階ではないでしょうが、世界の七人制ハンドボールが未知数だけに期待も大きいし、魅力も感じている。一つでも多くのものを学びたい。なかでも、ハンドボールが欧州各国の生活にどのように生かされているかを知りたい。自分に与えられた使命をよく理解し、いままでご指導いただいた諸先輩に報いるためにも全力を尽くして責任を全うしたい。遠征に際してのみなさんのご配慮、ご支援に深く感謝します。

〔略歴〕ディリースポーツ社員▽出身校 大阪府立豊中高校、関西学院大学▽年令 23歳▽本籍 福岡県甘木市大字下秋月五二七▽現住所 大阪府豊中市岡上の町四の六

未知数に体当たり
GK 福本 弘

〔横顔〕今野に次ぐ名キーパー。ここ二年もすれば今野を追い越すのではないかといわれている。今野の三年後輩にあたる。非常に神経質だがファイトがある。合宿に帰ると人が変ったように陽気になる。みんなから「福ちゃん」と呼ばれいつもエビス顔。合宿の名物男である。

〔抱負〕欧州のレベルというものは、昨年のルーマニアを見ただけで未知数に近い状態です。どの程度われわれの力が通用するかは対戦してみなければわかりません。わたくしたちは監督、コーチ役員の指示に従い日本ハンドボール界の歴史の一ページを飾るにふさわしい試合をしたいと思っております。みなさんの御声援をお願いいたします。

〔略歴〕芝浦工業大学学生▽出身校 函館工高▽年令 21歳▽本籍 北海道函館市駒止町一五▽現住所 東京都世田谷区深沢町三の六一

代表的名キーパー
GK 今野 邦彦

〔横顔〕日本の代表的な名キーパー。函館工高、芝浦工大の黄金時代を築きあげた選手。芝浦工大時代の三年後半からメキメキ腕をあげ四年のときは名キーパーの称号（?）をもらったくらい。社会人になってからもうま味を増し長足の進歩。性格はきわめて陽気。

〔抱負〕あの日、ハンドボール協会から世界選手権の選手に選抜されたとの報告を受けたときに、私の気持ちは、うれしいというより責任の重大さを感じました。選抜された人たち全員恐らくこの気持ちには変りがないと思いますが、自分にはそれ以上に感ずるものがありました。それは最年長者であり、その最年長者を選抜してくださったハンドボール界のためにもベストをつくします。東京オリンピック種目から除外された今日、この世界選手権でわれわれの力をみせるチャンスがあるからです。その重大なる責任を遂行のため、十万余人のハンドボール人口の中から選抜の光栄に浴したのですから全力をつくします。

〔略歴〕大崎電気工業株式会社社員▽出身校 函館工高、芝浦工業大学▽年令 25歳▽本籍 北海道函館市松川町一三八▽現住所 東京都世田谷区上馬町二の七〇

GK 今野 邦彦　GK 福本 弘　副主将 深江幸次郎　主将 近藤 金博　役員 境井 秀三

ＦＢ　尾藤　嘉郎

ＦＢ　村上　善英

ＨＢ　服部　和記

ＨＢ　田口　侑義

ＦＷ　竹野　奉昭

悔いのない試合を

ＦＢ　尾藤　嘉郎

〔横顔〕愛知県の一宮高校が生んだ名選手。これを育てあげたのは浅野君(日体大ＯＢ)、浅野君のコーチがよかったので一日一日上達した。守備範囲が広く、とくに正面に対しては強い。プレーがキビキビしているのは父が軍人であったためだろう。性格は逆に温和。

〔抱負〕全日本チームの一人に選ばれ最大の名誉です。七人制に関する限りでは、まだ世界のチームには対戦していませんが、悔いのない試合をしたいと思っています。

〔略歴〕芝浦工業大学学生▽出身校　愛知県立一宮高校▽年令22歳▽本籍　名古屋市昭和区雪見町一の二〇▽現住所　東京都世田谷区深沢町三の六一

出足のいいのが身上

ＦＢ　村上　善英

〔横顔〕中学時代はバスケットボールの選手だっただけにバックをやらせたら全くソツがない。出足のいいのが彼の身上である。カットがよくフォローもいい。小柄だがかんのいい選手。尾藤君とのコンビはすばらしい。小倉工高が生んだ名バックス。

〔抱負〕全日本チームに選抜されたのは非常に幸運であり、それなりに非常に責任を感じています。

全精神力を集中し思い残すことなく戦ってきます。

また大会前後にヨーロッパ各地を武者修業するので、各地のハンドボール技術をよく観察し、日本ハンドボール界の発展と技術の向上に役立つように勉強してきます

〔略歴〕芝浦工業大学学生▽出身校　福岡県立小倉工高▽年令22歳▽本籍　福岡県小倉市大字大門町五七▽現住所　東京都世田谷区深沢町三の六一

精神力と団結心で

ＨＢ　服部　和記

〔横顔〕右のインナーをやらせたらさすが。サウスポーが彼の最大の武器。第九回東西学生王座決定戦(いまの全日本大学王座)で関学を手古ずらせた選手。芝浦の9点のうち一人で7点をあげ芝浦に優勝をもたらした。ポインドゲッターであることは間違いない。シンの強い男。ゴール前の早い動きで相手のバックスをくずすのがうまい。

〔抱負〕全日本軍の一人に選ばれ、わたしにとっては喜びであり、また重大な責任を感じます。外国人は日本人に比べ体力その他すぐれた技をもっています。だがわれわれ全日本チームはそれにも負けず合宿で鍛えた精神力とチームワークで一戦一戦全力をつくします。

外国のハンドボールの長所を学び研究し日本のハンドボールがますます発展するようにつくしたいと思っております。最後にみなさんのご期待にそえますようがんばります。

〔略歴〕建設省中部地建▽出身校　名古屋市立桜台高校、芝浦工業大学▽年令23歳▽本籍　岐阜県郡上郡美並村高砂一九八▽現住所　名古屋市南区元塩町四の一

攻守両面にうまみ

ＨＢ　田口　侑義

〔横顔〕桐生工高時代は名ＣＨ。攻守両面にわたってうまいプレーをする。ファイトマンであると同時にリードマンでもある。かんのいい選手。足が早いのが最大の武器、責任感の強い男。

〔抱負〕ハンドボール界初の海外遠征、それも世界選手権出場の名誉ある全日本チームの一人として参加することは喜びです。

現在の気持は何か重大な責任を感じております。七人制に関しては全く未知数です。昨年十一人制強豪のルーマニヤを迎え戦ってみてそれから受ける感じはやはり七人制でも相当な強敵だと思います。世界の強豪を相手に戦うのですから、われわれも、それ相当の覚悟をもたなくてはなりません。

わたくしは未熟者ですが一生懸命努力し『日本人ここにあり』と大いにがんばってきます。

では元気でいってまいります。

〔略歴〕芝浦工業大学学生▽出身校　群馬県立桐生工高▽年令22歳▽本籍　群馬県山田郡大間々町大字大間々一〇二九▽現住所　東京都世田谷区深沢町三の六一

シュートはピカ一

ＦＷ　竹野　奉昭

〔横顔〕日本のＦＷとしては最高のプレーヤー。熊本済々黌時代には当時高校界の王座に君臨していた名古屋の桜台高の連勝記録をストップさせた。しかもこのとき全国優勝をなしとげた。日体大に入学してもすぐ第一線に出たことでも彼の力量がわかる。西独戦、ルーマニア戦にも出場した。ジャンプシュートはピカ一。世界選手権の活躍がたのしみ。

〔抱負〕日本ハンドボール界初の海外遠征の一人に選ばれ本当に名誉に思っています。このような機会を与えてくれた先輩諸兄に感謝の念でいっぱいです。いま静かに考えるときに、あまりにも責任の重大さに……。しかし選ばれた以上最善の努力をします。

チーム全体が団結し、研究、勉強しながら、一戦々々戦ってこそこの遠征の意義があると思っています。ベストつくすのみ。

〔略歴〕大崎電気工業株式会社社

員▽出身校　熊本県立済々黌高校日本体育大学体育学部▽年令　24歳▽本籍　熊本県飽託郡飽田村大字土河原三一▽現住所　東京都世田谷区深沢町三の五四

舌をまく突進力

FW　宮原藤支男

〔横顔〕アダ名は「爺(ジー)」という。白髪があり背が丸いというので現役時代から「ジー」「ジー」といわれっ放し。おじいさんどころか彼のスピードは大したもの。カモシカを思わせるようだ。ゴールめざしての突進力はだれでも舌をまく。チャンスメーカーであり社会人になってますます巧味が出てきた。竹野とは名コンビ。

〔抱負〕全日本チームの一人に選ばれ責任の重大さを感じられずにいられません。

全然しらない世界の強豪を相手に戦うので、いちまつの不安がないでもありません。勝敗は別として自分の持てる力を十分発揮し、悔いのない試合を行ないたいと思っています。世界のハンドボールに接することができるので、この機会によく勉強し、日本ハンドボール界のために、役立つことがいちばん恩返しだと思っています。

〔略歴〕大崎電気工業株式会社社員▽出身校　愛媛県立新居浜工高校、芝浦工業大学▽年令　23歳▽本籍　愛媛県周桑郡小松町大字新屋敷甲一八六▽現住所　東京都世田谷区下馬町三の三三　内本方

球さばき天下一品

FW　山田　幸男

〔横顔〕芝浦工大のCF。小柄でおとなしく頭はオールバックの坊ちゃんスタイル。ゴール前の動きはうまい。技巧派のシューター、球さばきにかけては天下一品。HBが専門だったが芝浦に入学してからFWに転向した選手。攻守両面のカナメ。女性的な声を出すのが特徴である。

〔抱負〕初めての海外遠征であるし、また室内の国際試合としても初めてなので、どの程度の戦績があげられるかはわかりません。

日本ハンドボール界の代表として自分の全能力を傾け、悔いのない試合をして来たいと思っています。皆様のご期待に応えるような成績があげられるかどうか。ただ死に物ぐるいで戦い抜いてくる覚悟です。

〔略歴〕芝浦工業大学学生▽出身校　名古屋市立桜台高校▽年令　22歳▽本籍　名古屋市南区松池町一の五▽現住所　東京都世田谷区深沢町三の六一

国際親善に寄与

FW　井上　裕人

〔横顔〕日体大のFWとして早くから注目されていた。一昨年あたりまでは調子の波が多かった。しかし今シーズンはシュート力が安定して大きな成長をとげた。第七回全日本室内では全日体大優勝の原動力となっており、世界選手権でも大いに期待されている。

〔抱負〕世界選手権大会の一選手として参加できることはわたしの一生涯の誇りと喜びです。

選抜された以上、選手が一致団結して優勝をめざしてできる限りがんばり、日本人の誇りと不退転の精神を発揮して、国際親善に役立つよう努力いたします。

〔略歴〕日本体育大学学生▽出身校　大阪府立鳳高校▽年令　22歳▽本籍　大阪府堺市中三国ヶ丘町五の一六二▽現住所　東京都世田谷区深沢町三の五四

代表的なウイング

FW　高村　武彦

〔横顔〕180センチの長身から打つロングシュート、大きなストライドを利した突進力は桜台高校時代から有名。関大に入学してから関西学生リーグは彼一人になやまされてきた。日本の代表的なウイングプレーヤーである。昨年夏のルーマニア戦にはLWとして出場し7点をあげた。竹野とともに得点源の一人である。

〔抱負〕日本ハンドボール界にとって、意義ある初の世界選手権大会の参加。選手に選ばれたむねの通知を手にとったときの喜びは大変なものでした。十一人制ハンドボールよりも七人制ハンドボールが将来性において優るとの論評もある現在、今大会の参加は七人制ハンドボールの普及に大きな役割を果たすものと思います。わたしもヨーロッパ・ハンドボールの勉強に、そして決勝リーグ進出のために、ルーマニア、チェコとの試合に、全魂をこめて戦い抜きます。

〔略歴〕関西大学学生▽出身校　名古屋市立桜台高校▽年令　20歳▽本籍　名古屋市南区道善町一の二〇▽現住所　大阪府吹田市千里山緑ヶ丘一七〇四の二　菊野方

悔いのないプレーを

FW　佐藤　宏輔

〔横顔〕芝工大のレギュラーになってメキメキ腕をあげた新星。大試合になるほど強い選手。当たり出すとちょっと手がつけられないほどその攻撃力は鋭い。好、不調の差がはっきりしすぎるのが欠点だが、ミドルシュートはすばらしい。どちらかといえば遅攻型。

〔抱負〕現在の心境は重大な責任を考え暗中摸索です。文字通り強豪を向こうに回して戦うのですから、勝敗をうんぬんするのは早計だと思います。出場する以上全力を尽くして悔のないプレーをやりたいと思っております。

世界のハンドボールと接することによって、技を磨き、体験を生かして今後の日本ハンドボール界に貢献することが多くのハンドボールマン諸兄姉のご協力、ご支援に報いる唯一の道だと堅く信じております。

〔略歴〕芝浦工業大学学生▽出身校　愛知県立愛知工高校▽年令　20歳▽本籍　愛知県守山市小幡西新一八八▽現住所　東京都世田谷区深沢町三の六一

FW　佐藤　宏輔

FW　高村　武彦

FW　井上　裕人

FW　山田　幸男　　FW　宮原藤支男

国際試合にのぞむ

世界選手権の抱負

監督　高嶋　冽

昭和十三年協会創立いらい初めての海外遠征を行なうにあたり、各方面から受けました物心両面にわたる多大なご援助に対して深く感謝の意を表するものです。

この大事業の遂行にあたり、幾多優秀な人材があるにかかわらず私が監督に指名され感激にたえません。その責任の重かつ大なることを痛感しております。

世界選手権大会は三月一日から十二日まで西独各都市で開かれます。すでにいろいろ報道されたとおり、日本はCグループに属し、チェコ、およびルーマニアと対戦することに決定しています。日本ハンドボール協会は昭和三十一年に西独、昨年にはルーマニアと、それぞれ世界選手権大会の一位、二位チームを招き、技術の向上をはかってきました。この両チームはともに十一人制の強豪チームでした。したがって日本ハンドボール界にとって七人制の国際試合は文字通り初めてです。本場であるヨーロッパの傾向を知るのは書物とフィルムに頼る以外になかったのです。

しかし十一人制、七人制といっても、ハンドボールの本質は同じです。いままでの国際試合を通じて予測できることは――

1　強烈なロングシュート
2　シュート範囲の広大さ
3　巧みなドリブルの駆使
4　危機に際しての荒いデフェンス

などです。体格、体力の異る日本人としては、特別な対抗法を考えなければならない。これは自明の理です。

そのためにパリ駐在の河内理事を通じ、七人制のみを採用しているフランス国内で約十日間の練習（四試合をふくめ）を行なうことにしております。

その意味で二月十九日、パリで行なわれる陸軍選抜チームとの第一戦は極めて重要な試合となります。われわれは、この第一戦（大きくいえば、協会として初めての七人制国際試合です）でヨーロッパ七人制の傾向を読みとれます。選手は肉体をもって感じとり、以後十日間の練習のすべてをチェコとルーマニアにぶっつけるつもりです。この両国はともに強豪です。武者修行としての相手に不足はないが、せめていずれか一国を破り決勝リーグ（八カ国）に進出したい。決勝リーグに突入すれば、勢いに乗じてせめて第六位以内にははいりたい。これが私の最少限の希望であり、抱負です。

終りに再びこの遠征の成立のためにご援助いただいた各方面に深甚な感謝の意を表するものです。

本場に学びたい点

研究員　荒　川　清　美

わたしの任務は競技技術と審判技術の研究です。多年念願していた海外遠征が実現し、まことによろこばしい。その反面、この責任の重大なることを痛感しています。

球界の期待にこたえるべく最大の努力を払います。

1　競技場と施設について

日本の競技場は三つに区別することができる。

㋑特設競技場および体育館㋺学校の校庭および体育館㋩広場

以上からみると㋑の特設のものは時間、距離、経済的、用具施設の関係からあまり利用されず、各種大会などに限定される。㋺の学校の施設は、他の競技と併用される。したがって十分な競技を行なうには用具施設の関係で相当な困難である。とくに都会の学校はコンクリート化されている。また屋上を使用する場合も、狭いうえに危険がともなう。このために用具施設それに付随する規則なども考慮しなければならない。㋩の広場における競技場とその施設についても研究されているかどうか。

わたしは最近これらの点からハンドボールを実施するには、いちばん問題になるのはゴールポストであると考えている。体育館でも広場でも持ち運びが簡単で、施設できるポストがあれば競技ができる。

2　競技技術について

㋑基礎技術　ハンドボールは基礎技術に始まり、基礎技術に終ると

いう。この基礎技術の走、跳、投のトレーニング方法と練習法と指導法。またこの連けい動作、とくに体格の差異による場合の基礎技術などを学んできたい。

㋺**応用技術**　防御、攻撃の基本的姿勢とその動き。とくに防御から攻撃に移る展開法。これはドイツ、ルーマニア戦において学んだが、欧州ではとくに早く効果的な展開をする。この練習法およびその型を研究したい。

㋩**戦術**　戦術については対ルーマニア戦ではっきりしているように日本の得点は前半が悪く、後半がよい。これに対してルーマニアは全く反対である。とくに日本は前半の10分から20分までの10分間は最低の得点時である。これは体力、トレーニングまたは戦術の欠陥であるかどうかを研究してきたい。

3　審判技術

㋑**規則**　過去二回の国際試合において基本的なものは自信を得た。細部において系統的な解釈などを確認し、細則または申し合わせ事項について研究を重ねたい。

㋺**審判**　日本の審判技術は対ルーマニア戦で大いに認められた。しかし退場などの処理はいままであまり実施されていなかった。とくに日本では強いチームが反則が多い。反則を犯すことが有利であるかどうかを研究してきたい。引き分け、没収試合などの決定も研究したい。

4　その他

運営法、各国協会の組織、指導者養成法、普及法、年間のスケジュール、七人制と十一人制の配分、学校体育としてのハンドボールなどについても学びたい。

出発するにあたつて

マネージャー　中沢重夫

長年の夢が、ここにようやく実現することとなっただけに、与えられた使命役割は非常に大きい。この遠征の決定が急であったにもかかわらず、実現できることとなった。これはハンドボール関係者の好意の賜ものである。すでに第一次、第二次強化合宿も終り出発を待つばかりです。選手一同の心意気も強く、どの程度の成果を収め得るか、全くの無です。その中から一つの活路と信念を見出し全力をあげてきたいと思う。準備においても初めてのことなので、やることなすことに、なにかと、とまどうことが多かった。これは出発してもすべてその通りであろう。生活環境の全く異る土地に行き、旅から旅へ、あらゆる条件を克服していかなければならない。連戦連戦休むヒマもない一カ月余となると思う。ただ一番心配だった食事と言葉。食事は第一次合宿で悲鳴をあげた選手たちも第二次合宿からそれに馴れ、覚悟もできた。言葉については、現地滞在の日本人にも連絡をつけているので心配はない。

ともかく一カ月余の間に吸収してこなければならぬものは非常に多い。試合は全力をつくして戦います。

強化合宿の成果と抱負

コーチ　松本重雄

〔**技術面**〕　前半は主としてサーキットトレーニングを行った。体力練成とは違い、旅行—試合に明け暮れする選手団の体力的、精力的負担になれることを主眼とした。選手たちは体育専門の選手でない者が多いので、マット運動などは大いにこたえ、驚きもした。しかし全員よくがんばった。後半は紅白に分れて練習試合を行なった。ボールを扱わない練習には走力を徹底的に要求した。ボールを扱う技術において一通りのいわゆる合宿計画をもっていった。特にシュート（変化球、あらゆる角度からのもの、あらゆる体勢からのもの、早いモーション、逆モーション、ロング、ジャンプなど）に力を入れた。

またオフエンスとデフエンスの差別なく、どんなプレーヤー同志でもコンビを組めるよう、二人対二人、三人対三人の攻防戦を基本として時間をかけた。

〔**精神面**〕　選手たちには、きついと思うほど監督から、緊張感を要求した。これは初めてのハンドボール界の期待と注目の的であり当然のことである。選手もその覚悟は十分承知しており、歯をくいしばってやった。

以上のように、世界選手権大会に好成績を収めるために、万全の整えを欠かさぬよう、ひとつでも心配と悔いを残さぬため努力をした。

日課表

項目	時間
○起　床	午前6時30分（トレーニング）
○朝　食	午前7時～7時30分
○練　習	午前9時～11時30分
○昼　食	12時～12時30分
○練　習	午後2時～4時30分
○入浴整理	
○夕　食	午後6時30分～7時
○学　課	午後8時～9時
○消　燈	午後10時

東西で日本代表壮行試合

『大いにがんばる』式場団長

——日独友好・スポーツ使節——

結団式
壮行会

世界選手権大会に出場する式場団長ら全日本チームの結団式、壮行会、壮行試合は二月十一日午後三時から東京浅草の台東体育館で盛大に行なわれた。全日本チームは日独友好百年祭を記念して「日本代表スポーツ使節」としてドイツに渡り、世界選手権大会をはさんでドイツ国内で親善使節の役を果すことになっている。

（結団式）

午後三時式場団長、高嶋監督ら選手団二十人が入場、協会から選手団二十人の紹介があり、ついで高松宮妃殿下から選手団に大日章旗が授与された。旗手は竹野選手。日本体育協会の津島寿一会長から「世界選手権で大いにがんばってもらいたい」と壮行のことばがあり、これに対して選手団を代表し、式場団長が「みなさんの応援で大いに自信がつきました。選手団一同は日本ハンドボール界のため悔いることのないようにがんばります」と宣誓した。このあと駐日ドイツ大使館員のテルゼ・トウセン嬢(21)から選手団に花束の贈呈があり、これで結団式を終った。台東体育館には芝浦工大の三浦部長、大崎電気の渡辺社長、日体大関係者をはじめ日本体育協会、ドイツ大使館、文部省などの関係者が多数出席した。

（壮行会）

全日本チーム対全関東学生選抜チームの壮行試合終了後、台東体育館の地下サロンで壮行会が行なわれた。まず日本ハンドボール協会副会長の出口林次郎氏が壮行のことばをのべ、IOC委員東竜太郎(東京都知事)、荒木文相、ウイルヘルム・ハース駐日ドイツ大使、日独協会会長の高橋竜太郎氏、日本オリンピック委員会総務主事の田畑政治氏などの祝辞(代読もあり)があった。これに対して式場団長から「全日本チームもさることながら日独友好百年祭のスポーツ使節として大いに親善を高めたい」と答辞——、ビールで乾杯したあと万才を三唱し午後五時すぎ壮行会の幕を閉じた。

（壮行試合）

全日本 22（11—5、11—6）11 全関東学生選抜

▽レフェリー＝岡村（教大出）

竹野、高村、近藤のFWトリオは実にうまい。近藤がチャンスメーカーとなり、竹野、高村に打たせて前半11—5と大きくリードし、そのまま全関東学生を押えた。いままでフイルド一本槍だった高村がすっかりインドアになれ、ウイング攻撃は立派だった。世界選手権での活躍がたのしみ。深江、服部の動きと、GK今野のプレーはよかった。

第三回世界選手権 七人制大会記録

33年2月27日～3月8日
（西ドイツ各地）

▼第一次予選リーグ

▽Aグループ

スエーデン 31（16—6、15—5）11 スペイン
ポーランド 14（6—8、8—6）14 フィンランド（引き分け）
スペイン 19（7—10、12—6）16 フィンランド
スエーデン 19（8—9、11—5）14 ポーランド
ポーランド 25（13—8、12—3）11 スペイン
スエーデン 27（13—10、14—6）16 フィンランド

（順位）1.スエーデン、2.ポーランド 3.スペイン、4.フィンランド

▽Bグループ

ドイツ 46（23—3、23—1）4 ルクセンブルグ
ノルウェー 17（9—6、8—7）13 フランス
ドイツ 31（15—4、16—8）12 フランス
ノルウェー 41（16—5、25—3）8 ルクセンブルグ
フランス 41（22—8、19—0）8 ルクセンブルグ
ドイツ 19（8—5、11—4）9 ノルウェー

（順位）1.ドイツ、2.ノルウェー 3.フランス、4.ルクセンブルグ

▽Cグループ

チェコ 27（12—8、15—9）17 アイスランド
ハンガリー 16（8—8、8—8）16 ルーマニア（引き分け）
チェコ 26（14—8、12—3）11 ハンガリー
アイスランド 13（6—5、7—6）11 ルーマニア
ハンガリー 19（8—9、11—7）16 アイスランド
チェコ 21（12—4、9—9）13 ルーマニア

（順位）1.チェコ、2.ハンガリー 3.アイスランド、4.ルーマニア

▽Dグループ

デンマーク 32（18—6、14—6）12 ブラジル
ユーゴ 35（19—6、16—2）8 オーストリア
オーストリア 24（15—7、9—5）12 ブラジル
デンマーク 20（12—4、8—8）12 ユーゴ
ユーゴ 22（11—7、11—2）9 ブラジル
デンマーク 22（9—8、13—10）18 オーストリア

（順位）1.デンマーク、2.ユーゴ 3.オーストリア、4.ブラジル

▼第二次予選リーグ

▽Aグループ

ドイツ 22（8—7、14—8）15 ハンガリー
チェコ 21（11—7、10—3）10 ノルウェー
ノルウェー 23（10—9、13—12）21 ハンガリー
チェコ 17（7—8、10—6）14 ドイツ
チェコ 26—11 ハンガリー

全日本やっと勝つ

＝17—16 全大阪善戦す＝

大阪壮行試合

第四回七人制世界ハンドボール選手権大会に出場する全日本チーム対全大阪選抜チームの壮行試合は四日午後三時三十分から大阪府立体育会館で行なわれた。試合は1点を争うシーソー・ゲームとなったが、後半タイムアップ寸前に山田がアンダーシュートで決勝点をあげ全日本チームが17—16で勝った。

▽レフェリー山田計

全日本 17（8—7、9—9）16 全大阪選抜

反	得	〔全日本〕		〔全大阪〕	得	反
0	0	福本	GK	光島（日体大出）	0	0
0	0	今野	GK			
2	0	尾藤	FB	富川（関学）	0	0
7	3	服部	FB	安倍（関学）	4	8
4	0	深江	HB	東（日体大出）	6	1
6	4	高村	FW	日向（関学）	2	3
3	3	山田	FW	村田（日体大出）	0	2
4	4	井上	FW	村中（関学出）	0	0
2	3	近藤	交代	中江（同志社大）	2	5
3	0	佐藤	交代	今西（関学出）	0	2
1	0	村上	交代	市場（関学）	1	8
			交代	浅野（京大）	1	2
			交代	望月（日体大出）	0	1
32	17		計		16	32

▽交代選手

全大阪—今藤（同志社大）
片山（関学）
山淵（関学）

〔評〕全日本は立ちあがりからすばらしい速攻をみせ全大阪を寄せつけなかった。14分サウスポーの服部が右サイドからジャンプシュートして5—0と主導権を握った。たしかに全日本の六人攻撃はあざやかだった。全大阪のゴールに殺到して激しいローリングパスで全大阪のデフェンスをゆさぶった。しかし15分をすぎるころから全日本FWの動きが目立って鈍くなった。第一次、第二次の強化合宿の疲れ、大阪駅到着わずか二時間後のゲームだったのでこの疲れはやむを得ない。16分全大阪は東がクメートルスローを決めてから見違えるように立ち直った。速攻の連続で全日本を逆に圧倒した。しかもデフェンスを固めたので全日本もチャンスがながった。全大阪は着々と加点したので前半は8—7と全日本が1点リードしただけ。

▽……後半になると全日本はエース高村（関大）にボールを集め左サイドから打たせた。これが成功して全大阪をわずかながら押えた。高村の豪快なジャンプシュート、全大阪バックスの健闘で試合は同点、さらに逆転とめまぐるしいほどだった。29分まで同点というスリル満点のゲーム、小柄の山田が得意のアンダーシュートで決勝点をあげやっと全大阪の追撃を断ち切った。全日本はポイントゲッターの竹野が出場せず、それに竹野との名コンビである宮原（藤）がいなかったので苦戦したが、もし竹野が出ていたらこんなに苦戦しなくてもすんだことだろう。しかし全大阪はうまかった。全日本と互角に渡り合い、終始全日本を苦しめたのはなんといっても監督の名コーチぶりがあったからだ。全日本だからといってゆだんはできない。（国士無双）

ドイツ 19—9 ノルウェー

（順位）1.チェコ、2.ドイツ、3.ノルウェー、4.ハンガリー

▽Bグループ

デンマーク 22（6—8、16—7）15 ポーランド

ノスェーデン 26（14—5、12—4）9 ユーゴ

ポーランド 9（4—6、5—1）7 ユーゴ

スェーデン 13（8—5、5—7）12 デンマーク

スェーデン 19—14 ポーランド

デンマーク 20—12 ユーゴ

（順位）1.スェーデン、2.デンマーク、3.ポーランド、4.ユーゴ

順位決定戦

▽1—2位決定戦（優勝戦）

スェーデン 22（10—5、12—7）12 チェコ

▽3—4位決定戦

ドイツ 16（10—6、6—7）13 デンマーク

▽5—6位決定戦

ポーランド 20（11—8、9—10）18 ノルウェー

▽7—8位決定戦

ハンガリー 24（10—9、14—7）16 ユーゴ

この結果

優勝 スエーデン
2位 チエコ
3位 ドイツ
4位 デンマーク
5位 ポーランド
6位 ノルウェー
7位 ハンガリー
8位 ユーゴ

海外ハンドボール通信

◇一月中旬にチェコの通信社から東京の共同通信社に『チェコのハンドボールについて』という記事が送られてきた。英文のものであり、共同通信社のご好意でその手紙をみせていただいた。内容は次のようなものです。

『1949年から一月上旬までに行なったチェコのハンドボールチームの国際試合は37戦で成績は26勝10敗1引き分け。得点合計は703点（一試合平均19点）、失点合計は565点（一試合平均15点3）である。1958年の世界インドアでは第二位、1960年の国際試合はスエーデン、デンマーク、東独に勝った。さらに十二月に四試合を行なった。

ハンガリー 17—15 チェコ
チェコ 21—12 ルーマニア
独　東 13—10 チェコ
チェコ 25—12 ポーランド

現在チェコには370人のトレーナーがおり、毎年国内選手権を開いてそのなかからナショナルチームを結成する。このチームの主力はGKのビッチをはじめハブリク、ヘルマン、フロロルーザ、セルマク、マレスの各選手である。女子の方は1957年に優勝し1949年から最近までの国際試合は20戦12勝6敗2引き分けとなっている。

◇ソ連の七人制チームは世界選手権大会出場をめざして1月15日練習試合としてリトニア選抜チームを27—17で破った。このあとチェコのローカルチームと練習試合を行ない、22—16、18—16と連勝した。（なおソ連は地区予選でルーマニアに負けて世界選手権出場のチャンスを失った。）ソ連のレギュラーはチバルキン、レベテン、イバクヒンモロゾフ、ザイチェプ、マトセゲンスカ、チェルツパッツ。

◇世界選手権大会予選の地区Gグループの成績

ユーゴ 18—14 ハンガリー
ハンガリー 15—13 ユーゴ

ユーゴは本大会出場権を獲得した。Aグループに属す。

（以上レキップ紙から）

座談会

捨てよう無意味な"外人崇拝"

どう戦うか？初めてづくしの世界選手権

国立競技場での第二次強化合宿が終った二月五日午後。スポーツマンホテルの一室で座談会を開いた。

＝出席者＝
高嶋　洌（全日本チーム監督）
松本重雄（全日本チームコーチ）
山岡二郎（東京都連盟理事長、世界選手権選手選考委員）

＝きく人＝
鷲尾武治（共同通信社運動部）

—第二次強化合宿が終ってほっとしたところですが、選手諸君のコンデションはどうですか。高嶋監督から……。

高嶋—一月四日から平塚市体育館での第一次強化合宿、二十八日のインドア大会が終った日からの第二次強化合宿とほんとうに休むヒマがなかった。第一次の強化合宿の方がむしろきつかっと思う。正月の休みもそこそこにいきなりやったものですから。選手たちは最初のうち、体中が痛くて嘆いていました。休けいする時間も惜しんでやったのですから。日課表をつくりその通り実行したのですからね。高村君（関大）あたりは正規の合宿をやったことがないから相当つらかったと思う。それに深江君（関学OB）もサラリーマンとして生活していたし、長い間合宿生活から遠ざかっていたからよけい大変だったと思います。

柔軟体操をみっちり

松本—一日も早く体の堅さをほぐしてすぐ練習できるようなコンデションにしなければならないので苦労しました。柔軟体操は高嶋監督がやってくれたので助かりました。この柔軟体操がすべての基礎になるのでヒマがあれば体を動かしていた。

—芝浦工大や日体大の選手はふだん相当なトレーニングをやっているからいいけれど、高村君は初めてのインドアだけに苦労したんでしょう?。

高嶋—かれのフイルドにおけるプレーは立派なものです。それがインドアでやるのだから一生けん命やっていた。フイルドの体をインドア向けに切り替えるのですから……。でもよくがんばってくれた。

山岡—わたしは第二次の合宿をみて高村君が東京の連中としかもインドアで努力しているのをみて安心しました。

—ところでいよいよ世界選手権大会ですが、一体どのていど日本チームはやれるのか。おそらく全国のハンドボールファンもおなじ気持だと思うが。

死力をつくして戦う

高嶋—初めての海外遠征が世界選手権だから苦戦はまぬかれません。しかも欧州の各国はすでにブロック予選で試合をすませている。日本はまだ試合もせずいきなり第二次リーグにシードされているから大変です。といってもわれわれは日本のハンドボールの力を世界に見せつけるため死力のある限り戦います。第二次リーグでチエコ、ルーマニアと対戦する。ルーマニアは昨年十一人制で来日しているのであるていどのことはわかります。しかしインドアですからなんともいえない。チエコは初めての対戦だし、ほんとうは困っています。でも日本のレベルはかなり上位にあると思う。ルーマニアには絶対勝って十一人制の雪辱をとげたい。

死力つくして戦う…と高嶋監督

山岡—日本チームは総体的に小柄だ。高村、竹野、深江以外は外人に比べて小さい。しかし日本人的な動きでアタックすれば勝機がつかめる。

—バックの小柄が気になるが、その点松本コーチはどう考えていますか。

日本人的特長生かす

松本—いま山岡先生がおっしゃったように、日本人的な特長を生かすわけです。とにかく一にも二にも走りまくり、激しく動いて相手をゆさぶるのがいちばんいい。外人は体が大きいので日本人ほど器用でない。デフェンスの場合もうしろに退って防ぐよりたとえ50センチでもいいから前に出てアタックする。体で相手の動きを食い止める。これがコツです。

—日本の選手ははね飛ばされないかな——

高嶋—そんなヘマはやりませんよ(笑う)。アタックして相手にシュートのチャンスをあたえないことだ。

山岡—七人制はコートが狭いから日本チームには最適だ。

松本—背が高いから有利とはいえない。バスケットボールなら別だが……。バックの場合でもあまり体が大きいと動きが鈍くなる。身長があって、相手と対等に動けるバックは日本はもちろん、インドアの場合は外国でもあまりいないんじゃないかな。身長差が絶対の好条件とはいえない。だからそう心配したことはない。

あくまで正攻法で

高嶋—勝ちたいことは事実だが、その前にもっとやることがある。それは全力でハンドボールの正攻法で行くことだ。いい加減なプレーで勝ってもそれは長続きしない。負けてもいいからあくまで正攻法だ。

—こんどのチーム編成の骨子は…

高嶋—「攻撃は最大の防御なり」のことわざがある。これを忠実に

できるプレーヤーを重点にした。若い人たちは馬力で走り回る恐れがあるので、どうしてもシンのあるプレーヤー、攻守両面で活躍できるプレーヤーが必要になった。それでベテランの深江君と服部君を選抜した。それに西独、ルーマニアの来日のとき、国際試合の経験者ということにした。その意味で近藤君や竹野君はすぐれている。

山岡—わたしは選考委員に選ばれたとき、やはり国際試合の経験者がいいと判断した。いろいろと問題があり、選抜するのにずいぶん苦労しました。

—芝浦系が多いという声もあるが……

高嶋—三十五年の全日本総合、全日本学生、国体などビッグエベンツの資料を参考にした。

日本人的特長生かして…と山岡氏(右)と松本コーチ

山岡—芝浦工大は四大タイトルをにぎり、そして公式戦に47連勝したんだからあるていどやむを得ないと思う。それに事実強いんだから……。フイルドとインドアは全く違うという人もいるが、ハンドボールはフイルドもインドアもそう大きな差はない。

—ところで勝てますか。

一勝が最低で最大?

高嶋—インドアのルーマニアはそう強いとは思わない。またチェコはルーマニアよりも少しレベルが下がると思う。あんまり大きなことをいうと、負けたときに笑われるから……(笑う)1勝はできると思う。もし1勝すれば第3次リーグ(決勝リーグ)に進出できるのだ。8チームでやるわけだから8位以内に入賞ということになる。だから一戦一戦慎重にゲームを運び、最大限のベストをつくして1勝しなければならない。

松本—その意味で世界選手権大会の前にフランスに滞在してフランスのローカルチームと親善試合をするのはいいプランだった。フランスで四試合やれば欧州のレベルがわかるから心強い。

山岡—フランスでの試合で外国の技術をあるていどかつかめば本大会に出てもそう心配はない。それに「外人崇拝」の考え方を捨て日本人の誇りをもって戦ってもらいたいね。

高嶋—同感。

松本—同感。

—とにかく第二次リーグで1勝することが最大の目標であり、最小の目標でもあるわけですね。

高嶋—そうです。ベストをつくします。みなさんの応援にむくいるようがんばります。

—どうもありがとうございました。ご健斗を祈ります。

体協、旅費の半額を補助

今回の遠征費用は約一千万円かかるが、日本体育協会は二月一日の理事会で旅費の半額五百七万四千九百円の補助を決めた。

体協の各競技団体への世界選手権参加に対する旅費補助は、原則として四年に一回、三分の一と決められているが、ハンドボールは東京オリンピックの種目からはずされて国際舞台への進出のチャンスが、少くなったことから特例として、今回のような措置がとられたものである。

× × ×

五輪ハンドボールの悲願成らず

＝JOC, 18種目案を承認＝

実現するか〝世界選手権〟〝五輪番外種目（デモンストレーション）〟

オリンピック東京大会でハンドボール種目の開催は、日本ハンドボール界の大きな夢であった。それが無残にもふみにじられた。昨年十二月二十二日の東京オリンピック組織委員会で「十八種目、ハンドボール削減」の決定がくだされた。

二年前に開催内定

昭和三十四年五月、ミュンヘンで開かれた第五十五回国際オリンピック委員会の席上、昭和三十八年（1964）年の第十八回オリンピック大会の開催地が東京都に決まった瞬間から、ハンドボール競技もその開催種目の一つとしてその実現が約束された。

ハンドボールは昭和十一年（1936年）のオリンピックベルリン大会で開催されていらい、陽の当る場所に置かれなかった。二十八年ぶりに聖火のもとで行なわれるというニュースは、ひとり日本ハンドボール界にとどまらず世界ハンドボール界にとっても、大きな喜びであった。

このため一躍世界ハンドボール界と、日本スポーツ界の注目をあびるところとなった。日本ハンドボール協会(JHA)は、JOC、あるいはその後に組織された東京オリンピック組織委員会(OOC)と協力して来るべき日に備えて着々と準備を進めた。

種目削減案が導火線

だがここで事態は思わぬ局面にぶっかった。昭和三十四年の暮である。ローザンヌにあるIOC本部で、IOC本部事務局長のオットー・メイヤー氏が「IOCは日本に対しオリンピック東京大会における実施種目について18種目か15種目に削減、あるいは縮少するよう提案したい」という発表である。それまで順風満帆で意気込んできた日本のハンドボール界を大きくゆさぶったのである。

このときから式場会長、高嶋理事長の日夜を分かたぬ努力が始まった。採用か、削減か、文字通り雲をつかむような話である。

それだけに式場会長、高嶋理事長の努力は大変なものとなった。

種目検討委の設置

JOCがIOC委員やJOC委員に対して開催希望種目のアンケートをとったのもこのころであった。

荒川清美氏がJHAの推薦で、東京オリンピックハンドボール部門のアマ・コーチになったのもこのころであった。

国際ハンドボール協会(IHF)からオリンピック東京大会の参加内示国がJOCとJHAにとどいたのもこのころであった。

JOCは事態と問題の収拾のために、種目の整理について特別の検討を加える小委員会を昨年の十二月に設置し、十二月中に最終結論を出すことを決めた。

JOCがさきに求めたアンケートの集計が発表されハンドボールは下位だった。

ハンドボールの不利は動かし難いものとなり、IHFの努力と応援がJHAにとって唯一の〝力〟となった。

12月12日付の読売記事

憂色濃いハンドボール界に明かるい話題を投じたのは、十二月十二日付けの読売新聞（東京）に掲載された記事だった。

「ハンドボールと柔道は確実、東京五輪の実施種目」と報じ「ハンドボールの実施は確実」と伝えた。

その前後のJOCの内部には全種目か、18種目プラス、アルファという線がかなり打ち出されていたし、決定を前に正直のところJHAとしては一安心であった。

読売の記事から二日目の十四日種目検討小委員会は全二十二種目開催の方針を断念する意見が大勢を占めそれが伝えられた。

不利だった諸条件

JOCとしては種目削減問題が起きてからなにを減らすか苦心した。

削られる種目は今後の普及に大きな打撃をこうむるだけに、それは当然のことであった。しかし削減が動かし難いものとなるとその削減基準を次のように決めた。

一、日本における普及度
一、ヨーロッパとアジアにおける普及度を勘案
一、比較的経費がかからないこと
一、過去のオリンピックにおける実績

などがそれである。

JHAとして、自信を持つにしてはやや抵抗を感じる〝線〟であったに違いない。

とくにオリンピック史に照合されると弱かった。アジアにおける普及度をうんぬんされるのも痛かった。

28年ぶりの夢破る

オリンピック東京大会の開催種目を決める種目検討小委員会は十二月二十二日午前八時から東京赤坂のプリンス・ホテルで開かれた。引き続き東京オリンピック組織委員会総会がいずれも非公開で行なわれた。

議題はもちろん「削減問題」であり、まず小委員会は委員による無記名投票が行なわれ、カヌー、弓の削減がまず決定的となった。

投票後の討論で近代五種とハンドボールが問題になった。近代五種は国内での普及度の点で、ハンドボールは水球（ウォーター・ポロ）と比べて、アジア的ではないということでハンドボールと近代五種が落とされた。（この項、報知新聞、日刊スポーツ各12月23日付を参考にしました。）こうして遂にハンドボールの悲願は、残念ながらはかなく消えた。『二十八年ぶりにハンドボール実現か』という夢は文字通り夢に終ってしまった。

JOC決定後の動き

高嶋氏、いちどは辞意

▽…高嶋理事長はオリンピック東京大会からハンドボールがはずされたことにつき、「国際ハンドボール連盟と日本ハンドボール界に対する責任」から二十二日正午すぎ辞意を固め式場会長に進退を一任したが、午後四時半から開かれた日本ハンドボール協会の緊急理事会（別掲）で慰留され、辞意を撤回した。

緊急理事会開かる

▽…オリンピック種目からの削減のため日本ハンドボール協会は十二月二十二日午後四時半からお茶の水岸体育館で緊急理事会を開いた。その結果

一、ハンドボールをオリンピック東京大会のデモンストレーションとして開催出来るよう組織委員会など関係者に申し入れる。

一、1968年のオリンピックに正式種目となるようIHFなどとともに強力な活動を展開することなどを決めた。

高嶋氏、JOCで要望

日本オリンピック委員会（JOC）は十二月二十二日午後五時からお茶の水岸体育館で第十回総会を開いた。田畑総務主事からこの日午前中に決められたオリンピック東京大会の開催種目が十八種目にしぼられたことについて説明し各競技団体の了承を求めた。この席上高嶋委員（日本ハンドボール協会理事長）から次のような要望があった。

一、昭和三十六年二月二十六、七日の両日開かれる国際ハンドボール連盟総会にハンドボールがオリンピック東京大会から削除された理由を説明するための役員二人を派遣してほしい。

一、ハンドボールをオリンピック東京大会のデモンストレーション競技として実施してほしい。

一、国際ハンドボール連盟会長バウマン会長をオリンピック東京大会に招待してほしい。

発言の機会なし

▽高嶋理事長の話

ぜひとも実現したかっただけに残念でたまらない。

日本国内でも十万、世界で二百万の競技人口を持つハンドボールが削られるというのは全く不可解なことである。

とくに世界各国の連盟が、自国のIOC委員を動かして東京オリンピックを支持してくれただけに残念だ。全く申し訳けなかったと思っている。

国際信義の観点からも、JOC総会で、日本ハンドボール協会の態度を述べた。各国ハンドボール連盟を通じて各IOC委員を動かし、やっと決まったと思ったら削減ではだまされた感じだ。種目からはずされたからといっても、決まる寸前までベストをつくしたのだから、いまさら悔いることはない。できればなんとかして復活してほしいというのが本心である。それができなければせめてオリンピックの年か、その前年に世界ハンドボール選手権を日本で開催したい。あるいはオリンピックの公開（デモンストレーション）種目としてハンドボールを実施したいと思っている。

オリンピック東京大会組織委員会の委員がスポーツをよく知らずハンドボールをよく理解してもらえなかったのが大きい。グチになるが私自身、公式の席上では一度も発言のチャンスを与えられなかった。実に心残りである。

こん後の日本のハンドボール界の行く道については、協会として決めなければならないことなので、明言は、今は出来ないが、ともかく、三十六年三月には、まず、西ドイツで開かれる、第四回世界男子インドア選手権に出場し、これからも一歩一歩、オリンピック出場の次のチャンスを狙うようにしたい。

▽ハンス・バウマン会長

（国際ハンドボール連盟）の話

ソ連スポーツ団体の機関誌「ソビエト・スポーツ」は東京オリンピック組織委員会の十八種目開催案について、IOCのオット・メイヤー書記長はじめハンドボール、弓、レスリング、馬術、体操の各国際競技連盟が強く反対していると伝えている。このうち国際ハンドボール連盟ハンス・バウマン会長の話は次のとおり。

ハンドボールが日本では柔道よりも人気がなく、国際的にも弱いから削減したのだろう。だがこれは理由にならない。近くIOC委員と会ってアテネのIOC総会で再検討するよう要求する。

米が食えない強化合宿

＝楽書帖＝　第5回

鷲尾武治

○……世界選手権に初めて参加するというので選抜された十四人の人たちは大いに張り切って合宿にはいった。第一次は一月四日から平塚市の体育館で、第二次はインドア大会が終った二十八日夜から国立競技場で……。平塚の合宿は地元のキモ入り。というのは神奈川県理事長若崎さんが骨を折ってくれたものである。旅館から体育館までのランニングはいいとしても正月早々の強化トレーニングだからみんなネをあげ、竹野、宮原(藤)の両君は「体中が痛い」と泣きっ面。それに洋食(パン食)に馴れるため合宿中は三食ともパン食。これにはみんなが渋い顔。ひとりよろこんでいたのは高嶋監督。若い福本君や山田君は「すぐ腹がへります。メシが恋しい」と弱音を吐いていた。「米が食えない合宿」は相当つらいらしい。

○……室内選手権に南国の熊本から熊本商大クラブ（女子）が出場した。前年優勝の熊本クラブの面々。これに熊本市立高校のGK西村の美代ちゃんとFWの久連松さんが参加した。美代ちゃんは本誌4号で紹介ずみの肥後美人である。熊本国体の当時からみると色は白くなり全くの美女。監督の北川先生(熊本市高)、美代ちゃん、徳永さんの熊本チームの三人、日本学連の三谷君(明大)、ハンドボール協会の内山嬢、特別出演の藤田の八ちゃん（熊本県協会理事長）とわたしの六人でお相撲さんの食べる「チャンコ鍋の会」を開いた。場所は両国橋の近くにある呼び出し太郎さんの家、二つの鍋を囲んでタラ腹食べた。材料は鳥、白菜、豆腐、新菊、モヤシなど。体の小さい美代ちゃんの食べっぷりは大したもの。肥後美人は立派でした。「チャンコ鍋のおかげで優勝できました」と美代ちゃんにいわれたときは本当にうれしかった。来年またどうぞ。

○……近く女子実業団チームが生れます。熊本太洋デパート、大崎電気(東京)、レナウン（東京）の三チーム。太洋デパートは四月ごろで主力は熊本商大クラブの連中。大崎電気は社長の渡辺さんが力を入れ、男子に負けないようなチームをつくるとなかなかの張り切り方。関東地方の高校生からスカウトする。レナウンも渡辺さんの呼びかけに応じてつくるというもの。愛知紡を加えてことしの全日本実業団はおもしろい。「乞御期待、次週上映」。（共同通信社運動部記者）

×　×

時評

準備に片手落ち免れぬ？

～世界選手権代表チーム～

結集せよ。全国の〃総意〃

三月一日から西ドイツ各都市で開かれる第四回世界男子七人制選手権大会に式場団長、高嶋監督ら二十人の日本代表が参加する。日本チームの海外遠征はこれが初めてである。大いにその健闘と成果を期待したいものだ。この大会に参加することが正式に具体化してから出発（二月十七日）までわずかに二ヶ月余。とくに選手団の選考が行なわれたのは昨年も押しつまってである。このようなあわただしさのなかで球界初の遠征のお膳立てがされて、果して十分意をつくした選手団が編成されたかどうか。

筆者は、初の海外遠征団にケチをつけるものではない。また今回のメンバーにどうの、こうのというのではない。ただもう少し万全の準備ができなかったかということである。協会の片手落ちは免かれないのではなかろうか？。たとえば――選手の選考はフィールド（十一人制）における技倆が基準となっているような感じである。この大会にあらかじめ参加することがわかっていたなら、一月末に開いた第七回全日本総合室内を今シーズンに限って十一月末なり、十二月なりに開いてもよかったであろう。

事実、第七回全日本総合室内選手権をみていたら、ぜひ代表に加えて行きたいような選手が多数見受けられたではないか。

代表の大半を占める全芝浦工大が二回戦で敗退したのも黙って見のがすワケには行くまい。

国際試合を開いたり海外遠征などの大きな事業が計画されると、そのつどなにか釈然としないものがある。これは球界の最大の欠点である。大事業ほど全国の総意を結集しなければならないハズである。これは協会自体の若さを暴露するものであり、協会一部役員に客観性を欠くものがあるからではなかろうか。

ともかく世界選手権の日程も組み合わせも決っている。いまは代表チームの成功を祈るのみ。（S）

×　×

全日体大（男子）熊本商大ク（女子）が優勝

1月24日—1月28日　東京・台東体育館

第7回全日本総合室内選手権大会

第七回全日本総合室内ハンドボール選手権大会は一月二十四日から二十八日まで東京の台東体育館で行なわれた。参加チームは男子38、女子18チーム。男子は全日体大（東京）が大崎電気（東京）を破って第五回大会（昭和三十四年）に引き続き2度目の優勝をかざった。二回戦で不運にも大崎電気と全芝浦工大（東京）が顔を合わせ、大崎電気が快勝した。女子は熊本商大クラブ（熊本）が栃木女高（栃木）を押えて2連勝した。（熊本商大クラブは昨年熊本クラブで登録し、今回も同じ陣容）。最終日は高松宮さまが決勝戦をご覧になり、台東体育館は大崎電気の応援団、日体大応援団と花やかな応援合戦もあった。—（評）鷲尾武治（共同通信社）

男子

▽一回戦

大崎電気（東京）　不戦勝　桐生クラブ（群馬）

慶大（東京）　不戦勝　東洋レーヨン（愛知）

順天堂大（千葉）13（7—4、6—7）11　五商クラブ（東京）

全明大（東京）20（7—1、13—6）7　熊本教職員（熊本）

明星クラブ（東京）25（10—0、15—3）3　千葉工大ク（千葉）

東京学芸大（東京）20（7—6、13—12）18　神戸ストーク（兵庫）

▽二回戦

墨田川高（東京）26（12—6、14—8）14　浦和市高（埼玉）

東京旭桜クラブ（東京）18（9—3、9—7）10　函館工高OB（北海道）

全教大（東京）38（18—5、20—4）9　雪ケ谷クラブ（東京）

福島大クラブ（福島）25（12—5、13—7）12　府中クラブ（東京）

東北学院大（宮城）23（6—4、17—2）6　旭クラブ（東京）

早大（東京）　不戦勝　仙台クラブ（宮城）

全明大（東京）14（6—9、8—3）12　鎌倉学園高（神奈川）

富士高（静岡）27（17—10、10—5）15　東大（東京）

全日体大（東京）30（15—0、15—2）2　東京学芸大（東京）

慶大（東京）　不戦勝　大垣南高（岐阜）

立大（東京）26（12—5、14—4）9　千東クラブ（東京）

全慶大（東京）28（10—7、18—4）11　白亜クラブ（岩手）

大崎電気（東京）14（6—4、8—5）9　全芝浦工大（東京）

〔評〕このゲームは実におもしろかった。それは世界選手権に出場するスタープレーヤーが顔をそろえたからである。全芝浦工大には近藤、服部（以上OB）、佐藤、山田、田口、村上、尾藤、福本（以上現役）の8人、大崎電気には宮原（藤）、今野（以上芝浦工大OB）竹野（日体大OB）の3人。試合は速攻の応しゅうで息を抜くひまがなかった。ちょっとしたミスが直接得点に結びつくという激しい内容であった。これは事実上の優勝戦とみていい。試合前の予想は全芝浦工大に分があったのだが、いざフタをあけたら大崎電気のペースだった。大崎はポイントゲッターの竹野にボールを集めて打たせたのが成功した。全芝浦のバックスは小柄なため長身の竹野がジャンプシュートすると、それがみごとゴールイン。竹野は前半5分7メートルスローを決めてから調子に乗り12分、14分、15分30秒、18分と一人で5点をあげた。全芝浦は全く手がつけられなかった。山田、佐藤の好シュートで前半は6—4で終った。後半も竹野のペ

全日体大～大崎電気戦、ゴール前のプレー。

男子決勝の全日体大対大崎電気の試合。井上（日体大）のシュート成る。

ースで大崎電気はつねにリードをまもり、ついに芝浦を破った。竹野はシュート23、得点11という驚異的なもの。世界選手権での活躍が楽しみ。芝浦の近藤、山田もよく戦った。芝浦のチームプレーも最高の出来であり負けても悔いがなかったほどである。（鷲尾）

【芝浦】	S	得
福本	0	0
尾藤	0	0
村上	0	0
田口	2	0
山田	9	3
塩川	0	0
佐藤	7	1
北村	3	3
服部	2	0
近藤	8	2
越智	0	0
（反則43）	31	9

【大崎】	S	得
今野	0	0
高森	0	0
高橋	2	0
村上	3	2
五十嵐	0	0
高井	1	0
竹野	23	11
小谷内	0	0
宮原（藤）	4	1
井上	0	0
（反則37）	33	14

滴水会（東京）28（17—2 11—1）3 順天堂大（千葉）

▽三回戦

大崎電気（東京）25（15—5 10—5）10 墨田川高（東京）

旭桜クラブ（東京）18（9—7 9—5）12 慶大（東京）

滴水会（東京）15（9—6 6—6）12 全教大（東京）

東北学院大（宮城）20（10—5 10—4）9 福島大ク（福島）

早大（東京）16（9—3 7—6）9 全明大（東京）

日体大（東京）9（5—3 4—3）6 芝浦クラブ（東京）

全日体大（東京）37（20—8 17—4）12 富士高（静岡）

立大（東京）15（6—8 9—4）12 全慶大（東京）

▽準々決勝

大崎電気 11（5—4 6—3）7 旭桜クラブ

滴水会 16（8—2 8—6）8 東北学院大

日体大 13（5—4 8—7）11 早大

全日体大 23（12—4 11—5）9 立大

▽準決勝

大崎電気 10（6—3 4—5）8 滴水会

▽レフェリー奥村（教大出）

（交代）間

（大崎）		（滴水会）
今野	GK	鷹見
高橋・高森	FB	中村・久保
村上	HB	武井
宮原・高井・竹野	FW	池田・福島・金山
32	シュート	38
47	反則	41
1	7メートルスロー	0

（交代）五十嵐、小谷内

〔評〕大崎は全芝浦工大を破って自信をつけた。滴水会は「打倒大崎」をかかげて最初から激しく渡り合った。前半大崎は4分、12分にエース竹野のポイントで有利に展開、滴水会も金山のシャープなシュートで2—1と追いかけた。15分をすぎると滴水会は竹野を押え切れず前半6—3と大崎がリードした。後半は滴水会FWは大崎バックスを縦の切り込みでくずし、金山を中心にして着実に得点した。両チームのGKはよく球の動きをみて止めていた。20分9—8と滴水会は1点差に迫ったが23分竹野に止めの1点を許し惜しくも敗れた。

全日体大 35（20—6 15—16）22 日体大

▽レフェリー勝（立大出）

（交代）古野、藤原、石原

（全日体大）		（日体大）
福田	GK	島崎
久保田・松田	FB	石松・浜
東	HB	越前
北山・栗山・井上	FW	小林・河上・沢田
49	シュート	42
28	反則	27
3	7メートルスロー	1

（交代）林、川上、青木

〔評〕同門の対戦となり試合は終始真剣なプレーだった。前半1分日体の石松がゲットすれば、全日体大も井上がシュートして互角に戦い3分まで2—2。5分をすぎると全日体大はスピード、パスワークに一日の長をみせ10分6—2と全日体大がリードした。15分10—3となり全日体大の勝利はほとんど確定した。日体大も速攻で追いかけ前半は20—6と全日体大の大差で終った。前半を分析すると技術の差がそのまま得点差となった。これはやむを得ないことである。全日体大はベテランらしく冷静さを失なわなかった。日体大

インドア スケッチ

◇全芝浦工大は男子二回戦で大崎電気に負けたので次の試合から芝浦クラブ、滴水会の応援団に早変り。応援している連中は近藤、山田、福本、尾藤、村上、服部など世界選手権出場者である。滴水会のベンチに陣取って盛んに声援、山田君はもどかしそうにしていた。福本君は二階の席で芝浦工大の応援旗を振っての応援。見ている方が気の毒なくらい。「出て行って交代したいんだがそうも行かないので……」と声を細めていう。「せめて応援ぐらいしないと……」とさびしくいう。かっての王者もここでは小さくなっていた。しかし負けてもくじけずに二軍チームを力づけていたのはなかなかできない芸当である。これは芝浦魂といえば少し大ゲサかも知れないが、一軍、しかもスタープレーヤーがそろって後輩を応援していたのは全く感心した。チームワークというよりも合宿生活のよい面が出たのである。（滴水会ベンチて）

は若さのためかあせり気味だった。後半になると日体大はがらりと戦法を変えた。早くボールを出し、確実にシュートして全日体大をあわてさせた。ゴールスローをとると二、三回のパスで全日体大のゴールに殺到し小林を十分生かした。後半だけのスコアは日体大がよかった。それほど善戦した。

▽三位決定戦

滴水会 12（6—3、6—3）6 日体大

▽決勝

全日体大 16（7—6、9—8）14 大崎電気

▽レフェリー岡村（教大出）

（交代）北山、川上、林

〔全日体大〕

GK 福田
FB 久保田、松田
HB 東
FW 青木、栗山、井上

〔大崎〕

GK 今野
FB 高森、高橋
HB 村上
FW 宮原（藤）、高井、竹野

（交代）五十嵐、小谷内

全日体大		大崎
36	シュート	36
42	反則	37
2	7メートルスロー	2

〔評〕会場は異常なほど静まりかえり、全日体大のスローオフで開始。両チームとも慎重な試合運びだった。1分大崎、4分全日体大にそれぞれ7メートルスローを竹野、東が決めて対等に渡り合った。時間の経過とともに両チームとも速攻と好ハンドリングでみごとな攻防戦を展開した。大崎は中央のフリースローから竹野がジャンプシュートを決め、宮原の左サイドのシュート、さらに竹野が鋭い切り込みからジャンプシュートして11分まで5—1と大崎のリード。全日体大は17分に栗山が7メートルスローを決めてから得意のカットイン速攻で井上が18分、20分と得点し1点差に迫った。これをきっかけに26分大崎のフリースローをカット、青木が同点のシュートに成功、つづいて東が左サイド

男子決勝戦の大崎電気対全日体大の試合。写真（上）は全日体大ゴール前で大崎の竹野（右背番号7）がパスしたところ。（下）は全日体大の東がシュート、これを防ごうとした大崎電気の宮原（藤）＝右＝。

インドアスケッチ

この大会で特記すべきことは新聞記者席が満員だったことである。臨時電話を架設していた社もあったくらい。こういうことはハンドボールでは珍しい。紙面の扱いも大きく、写真入りの社もあった。スポーツ欄のトップ扱い、ハンドボール関係者にとってこんなうれしいことはいままでになかった。「初場所大相撲が終り、国体スケートも閉幕した。生まのニュースはハンドボールだけ」というのがその理由。インドアの大会が時期的によかったのである。NHKもテレビ中継した。協会の努力が報いられた現われでもある。NHKはハンドボールに対して非常に好意的である。協会にとっては実に力強い。東京オリンピックの開催種目からハンドボールがはずされた同情も大いにあると思う。これを橋頭堡にして大いに前進しなければならない。他力本願でなく自分の力で前進することを忘れないで。

▽参考……大会最終日の記録は朝日新聞が横見出し、男子決勝写真入れで四段扱い。報知新聞は男子決勝写真入りで四段見出し。

優雅なバレー？

全日体大の栗山君がバレー（おどり）をやっているところです。なんと優雅なスタイルではありませんか。おどりのセンスもなければハンドボールは上達しません。その良い見本です。ごめんなさい、栗山君よ！　（写真上）

からのむずかしいシュートをプッシュして逆転に成功した。29分大崎竹野がシュートしたので前半は全日体大が7—6とリードした。後半開始直後の30秒に青木がカット、単独ドリブルで8—6と引き離すと大崎も竹野が1分、3分（7メートル）連続ゲットして8—8。これからは1点を争うシーソーゲームとなり実におもしろかった。23分全日体大の井上が左サイドからロングシュートして13—12とリード、26分井上のワンバウンドシュート、28分にも井上が左サイドから決めて逃げ込んだ。全日体大は井上、栗山、青木、東の四人が平均した力を持っていたのが勝因。大崎は宮原—竹野のコンビで善戦した。とくに竹野はシュート23、得点11点はみごとだった。（鷲尾）

優勝楯を受ける井上（全日体大）

◎男子決勝を見て

大会委員長　高嶋　冽

男子決勝戦の第一のヤマは前半11分大崎電気が5—1とリードしたときです。このとき大崎電気に〃これなら勝てる〃というスキが出たと思う。これが大崎の大きな敗因といっていい。全日体大は反撃に転じた。昨年決勝で芝浦工大に逆転負けした全日体大がこんどは大崎に逆転勝ち。インドアでは5点や6点で力を落すと負ける。これがいい例です。しかしいいゲームだった。守勢の大崎、反撃の全日体大、26分に5—5と全日体大が追いついた、名勝負に恥じないゲームといえる。第二のヤマは後半どっちが先に得点するか。開始直後の30秒に全日体大は青木のシュートで7—7と追いついた。これが大崎にとっては致命的な1点だった。追い込みにはいってのの最初の1点は実に立派であり、全日体大は全員がよく走り回った。昨年といい、ことしといい男子の決勝戦は実によかった。さっきもいったようにフイルドと違って5点や6点では安心できない。そこにインドアのおもしろさがある。

愛知紡、栃木女に屈す
熊本商大ク、後半に地力発揮

女子

▽一回戦

京都女高OG（京都）10（7—4／3—1）5 浦和市高（埼玉）

静岡城北高（静岡）19（11—4／8—2）6 有磯高（富山）

▽二回戦

熊本商大クラブ（熊本）16（9—1／7—2）3 菊華高（東京）

清水女高（静岡）11（3—2／8—2）4 日女体短大（東京）

栃木女高（栃木）不戦勝 花巻南高（岩手）

大谷高（大阪）13（5—2／8—4）6 京都女高OG（京都）

水海道二高クラブ（茨城）14（9—3／5—4）7 桜水商高（東京）

日体大（東京）9（4—4／5—4）8 静岡城北高（静岡）

全熊谷女高（埼玉）7（4—3／3—1）4 小野学園高（東京）

愛知紡（愛知）15（6—3／9—4）7 西峯クラブ（茨城）

▽準々決勝

熊本商大クラブ 15（5—1／10—2）3 大谷高

〔評〕熊本は終始速攻で大谷を圧倒した。確実なシュート、厚いディフェンスはさすが。大谷はFWの動きが鈍かった。

栃木女高 6（3—1／3—3）4 日体大

〔評〕栃木は日体にくらべて動きがよかった。とくにゴール前の切り込みがよく、日体大バックスを破った。前半の差がそのまま勝敗を決した。

水海道二高クラブ 8（2—4／1—3／1—0／2—0）5 清水女高

〔評〕大会初の延長戦だが内容に

女子決勝、熊本商大クラブ対栃木女高の試合。　熊本ゴール前で激しいボールの奪い合い。

とぼしかった。強いていえば延長戦になってから水海道の速攻がよかった。この試合で水海道の滝川はレフェリーのジャッジに不満を持っていたので5分間の退場を命じられた。

愛知紡 10（7－2、3－0）2 全熊谷女高

〔評〕すべての点で愛知紡がすぐれていた。

▽準決勝

熊本商大クラブ 11（5－2、6－1）3 水海道二高クラブ

▽レフェリー土橋（立大出）

（交代）渡辺、滝沢、染谷、鈴木

〔水海道〕		〔熊本〕
古谷(芳)	GK	西村
羽富	FB	蒲原
笠原	FB	徳永
川田	HB	井手
田村	FW	今池
滝川	FW	関
古谷(うめ)	FW	久連松
22	シュート	31
27	反則	41
4	7メートルスロー	0

（交代）弥富、安藤、桜木、木原

〔評〕熊本の速攻はすばらしく、とくにゴール前の早いローリングパスで水海道バックスをくずした。その中心となったのはHB井手である。自らチャンスメーカーとなって今池、関にボールを回した。これが実を結んでこの二人で8点をあげた。今池が水海道のアナである左サイドを攻めたこと、GK西村が水海道の7メートルスロー を4本も止めたことが熊本の勝因。水海道FWはパスが短く、せっかくボールを持ち込んでも熊本バックスにつぶされた。

愛知紡沢田のシュート（対栃木女高戦）

栃木女高 6（2－2、2－2、1－0、1－1）5 愛知紡

▽レフェリー西山（日体大出）

（交代）山田

〔愛知〕		〔栃木〕
野崎	GK	篠崎
山崎	FB	斎藤(セ)
宮本	FB	甫坂
塚原	HB	横井
磯部	FW	早乙女
青木	FW	斎藤(親)
沢田	FW	宇井
27	シュート	30
21	反則	21
0	7メートルスロー	0

（交代）高久、深津

〔評〕栃木は優勝候補の愛知紡を破る金星をあげた。この善戦はだれも予想しなかったことである。それよりも愛知紡のふがいなさが目立った。栃木は全員小柄だが愛知紡よりもスピードにまさり、ゴール前の激しい動きで愛知バックスをくぎ付けにした。そして宇井、横井に打たせたのは定石。愛知はこの二人をマークするのに精いっぱいで守備に追われていた。延長前半2分に宇井がノーマークから決め、後半2分早乙女が中央突破に成功して愛知の追撃を断ち切った。（鷲尾）

▽三位決定戦

愛知紡 12（5－1、7－5）6 水海道二高クラブ

▽決勝

熊本商大クラブ 9（3－4、6－0）4 栃木女高

インドア スケッチ

◇おスモウさんではありません。東北学院大の宮崎君。名（?）バックスで人気者。こういう若い人がハンドボールをやっているのだから本当にたのもしく思った。これからのハンドボールは少なくともこのくらいの体力が必要です。

◇男子準決勝の滴水会対大崎電気の一戦を見ようと大崎電気の渡辺社長と芝浦工大ハンドボール部長の三浦教授が本部席で鉢合わせ。滴水会は芝浦工大の一軍と二軍の混成チームである。優勝候補のトップにあげられていた全芝浦工大が大崎電気に負けているだけに、滴水会にとってはまさに雪辱戦。渡辺社長「これもいただきますよ」三浦部長「これは勝たせていただきますよ」と試合前から激しい舌戦を展開した。そばで聞いている方がおもしろかった。試合は大崎電気の勝利。二人の感想を聞こうと思って本部席に飛んで行ったらもうそこには二人ともいなかった。残念でした！

▽レフェリー勝（立大出）
（交代）高久、深津

〔熊本〕		〔栃木〕
村原	GK	篠崎
原永	FB	斎藤（セツ）、甫坂
手池	HB	横井
今池、関、久連松	FW	早乙女、斎藤（親）、宇井

（交代）西蒲、徳井 なし

熊本		栃木
25	シュート	29
29	反則	14
0	7メートルスロー	0

〔評〕熊本は前半10分まで栃木のスロペースに手を焼き得意の速攻が出ないうちに3―0とリードされた。この間ほとんど栃木がボールをキープ、熊本には全くチャンスがなかった。11分今池が中央を割ってシュート、3―1と追いすがってから熊本本来の速攻が出た。17分今池の好シュートで4―3と1点差にした。後半は熊本のペースとなり久連松を左サイドにおいて今池にボールを回し、今池に打たせたのがよく3分逆転に成功、そのまま栃木を押し切った。今池は一人で6点をたたき出した。（鷲尾）

（優勝した熊本商大チーム）

全日本総合室内選手権大会優勝チーム一覧表

回数＼種目・順位	男子 優勝	男子 準優勝	女子 優勝	女子 準優勝
第1回（大阪）	日本体育大学	大阪クラブ	春日丘クラブ	大阪カルチュアクラブ
第2回（平塚）	日本体育大学	大阪クラブ	日本体育大学	大谷高校
第3回（大阪）	全芝浦工業大学	日本体育大学	日本体育大学	四日市高校
第4回（名古屋）	日本体育大学	全芝浦工業大学	半田高校	愛知紡績KK
第5回（大阪）	全日本体育大学	全芝浦工業大学	寝屋川クラブ	栃木女子高校
第6回（東京）	全芝浦工業大学	全日本体育大学	熊本クラブ	愛知紡績KK
第7回（東京）	全日本体育大学	大崎電気	熊本商科大学クラブ	栃木女子高校

地方チームに大きな刺激
熊本商大クの洗練された試合運び

あとがき

小川励行（デイリースポーツ）

男子の全日体大、女子の熊本商大クの優勝は順当だった。しかしそれに反して全芝工大、女子の愛知紡などの強豪が準決勝までに姿を消しもの足りなさを感じさせた。ともに室内ハンドボール界の中心チームであるだけにもっと勝ち進み、存分のプレーを展開してほしかった。

全日体大の優勝はその技倆からいって当然だった。昨年全芝工大と決勝で顔を合わせ前半大量六点のリードを守り切れず、あっけない逆転負けを喫したことを考えると、ことしの全日体大の戦力は非常にまとまっていた。東、松田らのプレーは室内ハンドボールの基本に忠実であり、加えてスピード、ハンドリング、チーム・プレーは室内で要求されるすべての点を出し切っていた。これは他チームも大いに学ぶべきであろう。

一方の女子の熊本商大クの洗練された試合運びは賞讃に価するものがあった。熊本における室内ハンドボールの水準は相当高く、研究されていることがうなづける。ややもすれば大きな大会になると都会チームの上位進出が常識化されている現在、このように熊本商大クが堂々と優勝を飾ったのは、地方チームにとって大きな刺激となることだろう。

井手、今池を中心にした速攻は男子チームに劣らず、その強力な得点力と脚力は立派であった。

世界選手権に出場するメンバーの大半を占めていた全芝工大は、その心的な重圧から二回戦対大崎電気に苦杯を喫した。実力からして優勝を狙うに十分な力はあった。また実業団の大崎電気も竹野一人という感もあるが、よく現役選手と走り合った体力は立派であった。現役選手で固めている大会にこのように実業団チームが名を連らねることはハンドボール発展のために意義がある。女子の愛知紡とともに今後のさらに飛躍を期待したい。

今大会は男子38、女子18の計56チームが参加し、例年にない盛況を見せた。全日本選手権と名を打っての大会にしてはもの足りなさを感じた。いずれも地元チームが圧倒的に多く、さらには同一校からA、B、Cというように3チームも出場させることは、勢い大会に権威を失うものである。これが選手権当初のものであれば別であろうが、回を重ねて第七回目ともなれば、土台も出来上ったことだし、もう少し考えるべきことだろう。内容の充実したのが準決勝ぐらいからしか見られないということはファンとしてさびしい。ハンドボールをより向上させるためには、出場チームの予選なり、選抜方法をもっと研究してほしい。いたずらに参加数の多いことに、満足すべきでない。そろそろ内容、テクニックに重点をおくように心掛ければ、大会ももっと見応えあるものとなることだろう。全般的に二、三のチームを除いてはスケールが小さくなった大会だった。

× × ×

全日本実業団
大崎電気が初優勝
三菱レーヨン大竹、善戦むなしく二位

高松宮賜杯の第一回全日本実業団ハンドボール選手権大会は昨年十二月三、四日の両日広島国泰寺高校、広島市大手町中学両グラウンドで行なわれた。この大会は男子のみで参加六チームをABの両ブロックに分けて予選リーグ戦、各ブロック上位二チームで決勝リーグを行なった。この結果大崎電気(東京)が3勝0敗の成績で初優勝した。二位は三菱レーヨン大竹工場(広島)。

▽Aブロック予選リーグ

大崎電気(東京) 16（9―1 / 7―0）1 呉造船(広島)

淀川製鋼(広島) 9（4―2 / 5―2）4 呉造船(広島)

大崎電気(東京) 20（12―0 / 8―2）2 淀川製鋼(広島)

▽Bブロック予選リーグ

三菱レーヨン大竹(広島) 18（10―2 / 8―2）4 戸田工業(広島)

東洋工業(広島) 16（7―0 / 9―4）4 戸田工業(広島)

三菱レーヨン大竹(広島) 10（5―7 / 5―1）8 東洋工業(広島)

▽決勝リーグ（4チーム）

大崎電気(東京) 9（5―3 / 4―5）8 三菱レーヨン大竹(広島)

〔評〕 この一戦が事実上の優勝戦だった。試合は大崎の速攻で始まったが、三菱はスローペースで反撃した。大崎はこのスローペースにすっかり乱れ思うようにボールが回らなかった。それでも竹野に打たせて前半やっとリードしたが、後半三菱レーヨンの沖重のシュートが決まり大接戦となった。沖重はシュート10、得点4とかなりの高率をあげた。竹野は後半10分までにシュート5本で得点4点をあげたのでどうやら逃げ込みに成功したが、もし竹野がこのうち1本でもミスしたら逆転していたかもしれない。予選リーグ、決勝リーグと休む時間もあまりないので、試合の内容はあまりよくなかった。とはいうものの大崎電気を苦しめた三菱のナンバーワンの大崎電気を苦しめた三菱の善戦は大いに賞される。大崎にいえることは竹野のほかに宮原(藤)や井上をもっとフルに使うことだ。

反	得	S	【三菱レ】		【大崎】	S	得	反
0	0	0	加藤	GK	今野	0	0	0
1	0	0	田村	FB	高森	0	0	2
2	0	0	山中	FB	高橋	0	0	3
1	0	0	渕辺	HB	村上	0	0	1
3	0	0	小谷	HB	黒沢	0	0	0
0	0	0	佐々木	HB	高井	1	0	0
1	1	2	吉野	FW	小谷内	2	0	1
0	0	1	枝元	FW	中山	2	0	0
0	1	4	和田	FW	宮原(藤)	8	0	1
1	0	3	赤名	FW	井上	3	1	0
0	6	16	沖重	FW	竹野	10	8	1
0	0	0	(横山)	SUB	(五十嵐)	0	0	1
0	0	0	(谷川)	SUB				
9	8	26				26	9	10

大崎電気(東京) 10（6―1 / 4―1）2 東洋工業(広島)

三菱レーヨン大竹(広島) 12（6―3 / 6―5）8 淀川製鋼(広島)

東洋工業(広島) 6（1―1 / 5―4）5 淀川製鋼(広島)

〔評〕 両チームとも遅攻型。攻撃よりも守備のチームなので実に慎重に試合を進めた。東洋工業は漆畑のシュートが得点に結びつき有利に試合を運んだ。漆畑を中心に赤西、桂井、さらにバックスの小田のコンビがよかった。淀川はシュート力に難があったが、松本、太田が自信を持ってプレーすれば勝てた試合。

三菱レーヨン大竹(広島) 10（4―3 / 6―2）5 東洋工業(広島)

大崎電気(東京) 16（9―1 / 7―0）1 淀川製鋼(広島)

（順位）

1 大崎電気 3勝0敗

2 三菱レーヨン 2勝1敗

3 東洋工業 1勝2敗

4 淀川製鋼 0勝3敗

カットは実業団プログラム

このプログラムは最近にない立派なものでした。本来ならば左下に宮島の「赤い鳥居」があるのですが、写真にしたら出てこないのです。地元関係者の努力に報いられず残念です。とにかくすばらしいプログラムです。

◎国体出場チーム数決まる

第十六回国民体育大会秋季大会は十月八日から十三日まで秋田県で行なわれる。ハンドボールの会場、出場チーム数次のとおり。

▽会場

一般男子、一般女子　秋田県大曲市

高等学校男子、高等学校女子　秋田県湯沢市

▽人員

一般男子、高等学校男子

監督一名 選手一三名 計一四名

一般女子、高等学校女子

監督一名 選手一〇名 計一一名

▽区分

計	秋田	九州	四国	中国	近畿	東海	関東	北陸	東北	北海道	ブロック別／種別
25	1	2	2	3	3	3	4	3	3	1	一般男子
10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	一般女子
12	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	高校男子
10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	高校女子
57	4	5	5	6	7	6	8	6	6	4	計

1960年度を回顧する

杉山　茂
（NHK）

一月二十四日から始まった第七回全日本総合室内選手権大会をもって、今シーズンの国内主要行事は終った。残るは三月の世界選手権だけ。
ここで改めて1960年度を回顧してみよう。

1最大の話題ル軍来日

昨シーズンをふり返ってみてやはり最大の話題はルーマニアチームの来日（六月）である。

中国大陸を襲った台風のため来日が遅れ、最後まで協会関係者をヤキモキさせた。日本到着の翌日の対全早大戦を皮切りに主に東日本各地で十試合を行なった。

その結果はルーマニアチームの十戦十勝に終り、日本チームは昭和三十一年の西独選抜軍との国際試合と同じように一矢も報いずに終った。第五戦で全愛知が後半だけでも10―7とリードしたこと、最終戦で全芝浦工大が17―16と一点差のゲームをやったことが印象に残った。これで日本のハンドボール界のレベルが世界のトップレベルに比して、いささかも劣っていないということがはっきりした。大きな収穫であった。

技術的、戦法的には当然のことながらルーマニア・チームは六人攻撃、六人防禦を常用していた。とくにバックスのファイブメンがいずれもかなりの攻撃力を身につけていた。六人目のFWとしてFW攻撃のローテーションに完全にとけこんだプレーを見せていたのはさすが。日本チームに大きな刺激を与えた。

2空しかった五輪の夢

この国際試合と同じように関心を集めたのは〃東京五輪ハンドボール採否問題〃であった。1964年の東京五輪大会の正式種目としていったん正式に決められたが、その後国際オリンピック委員会（IOC）の種目削減案のため危なくなった。十二月二十一日はっきりと実現不可能の宣告がなされ、球界の悲願は無残にも断ち切られた。しかしこの削減問題が起きてからこの日まで高嶋理事長を中心とする協会首脳陣のみせた努力は文字通り涙ぐましいものがあった。不採用と決まった直後、高嶋理事長が記者団に対し「最善をつくしたのだから悔いはない」という言葉がすべてを現わしていた。東京オリンピック大会のデモンストレーション種目としての採用問題が起きているが、これはこれからあとの問題として残ろう。

しかし五輪正式種目としての不採用が決ったことは今後のハンドボール競技の普及面でたしかに打撃を受けるものである。昨年早々、中学体育の必須課目からはずれたこともあり、深刻な問題として残りそうである。この二つは今シーズンの暗い面の代表的なものであった。

3世界選手権へ初参加

国内の話題では次いで第四回世界七人制（男子）選手権初参加をあげねばなるまい。

この話題についてはおそらく本誌で意をつくした特集が行なわれると思う。懸案の海外遠征が実現できたことはよろこばしい。遠征団の成功を祈りたい。

4芝浦工大の47連勝

芝浦工大が一昨年から連勝を続け、昨年十一月二十三日全日本学生王座決定戦で関学に敗れるまで47連勝を遂げた。前シーズンのメンバーから六人の主力を送り出しながら春秋の学生リーグ、全日本総合選手権、全日本学生選手権の四大タイトルを確保したのはあっぱれ。それだけにまたこの常勝チームを打ち破った関学の健闘もひときわ光った。

5愛知が国体で完全優勝

昨年十月の熊本国体で愛知県が四部門（高校男女、一般男女）に優勝を遂げ、完全優勝したのも立派だった。第十四回国体で伊勢湾台風のため棄権を余儀なくされた愛知県がそのたくましい再建ぶりをこれほどはっきり見せたものはない。この結果ハンドボール王国愛知の名は、再び揺るぎないものとなった。

6初の実業団大会

昨年十一月広島で第一回全日本実業団選手権大会が開かれたのも意義のあることだ。実業団チームは、四、五年前から各地にボツボツできあがっていた。第一回は参加六チームのうち五チーム地元広島勢だったことなど、まだまだ満足できる状態ではない。しかし各地の地方大会には実業団チームが一、二必らず姿を見せるようになり実業団球界は立派に成長した。

7大崎電気と桜丘会

総まとめでも述べたように、今年をふり返ってみて実業団球界が軌道に乗ったのは大収穫であった。そしてその焦点となったのが大崎電気（東京）である。大崎はタイトルこそ全日本実業団選手権一つであったが、全日本総合二位、国体三位、全日本室内二位は上々の出来であった。室内のときには竹野（日体大出）一人のチームということを暴露したが、フィールドになるとさすが昨春芝工大を出た若手がよく働いた。来年度さらにの飛躍が待たれよう。このほか実業団では選手権で二位にな

った三菱レーヨン大竹(広島)、住友化学菊本(愛媛)らが目立った。新三菱重工(愛知)も地元の実業団選手権を主宰して、優勝するなど熱意を示した。国体の準々決勝で大崎電気と住友化学菊本が対戦したが、実業団チームの対戦は全国大会ではこれが初めて。実業団チームはその後も東京、大阪などに数チーム出来つつあるというが、ことしはその活動がさらに活溌となろう。

一方一般では桜丘会（愛知）が群を抜く存在。全日本総合四位、国体一位はクラブチームとして上出来。桜台高時代に培かった基礎の確かさを改めて知らせた。このほか大阪クラブ、熊本クラブ、芝浦クラブ(東京)、函館サンダークラブなどの有名チームも強かった。注目されたのは全仙台が国体で富山クラブを、白亜クラブ（岩手）が全日本総合で全法大を破ったことであり、東北球界の発展を裏付けるものである。

大学のＯＢチームでは前記の芝浦クラブのほか日体系の旭桜クラブ(東京)、京都三大学を中心にした京都クラブ、芝浦系の滴水会（東京）などがよかった。福岡クラブ、山口クラブ、それに関西日体ＯＢなどは往年に比べ鋭さに欠けた。忘れてならないのは教職員選手権優勝の神戸ストーク。さらに全国的な大会には出なかったが、かなりの実力を持ったクラブチームが各地方に二、三チームはあった。清商クラブ（静岡）などがその好例であろう。

8 学生ＯＢの結束機運

今シーズン各地方で東西大学ＯＢの結束によるクラブチームの結成機運が芽生えて来た。在阪日体ＯＢと関学ＯＢを主体にした大阪クラブは古くから有名だが、前記京都クラブなどもそうした一つのケースであろう。名古屋、大阪、東京にも似た動きがある。

ともあれ、学窓を出るとハンドボールとぷっつり縁の切れることが多かった過去に比べて、こうしたニュースは大いに歓迎されるべきだろう。

なおルーマニアを迎えての国際試合で五つの地方選抜軍が対戦したが、桜丘会を主力とした全愛知が後半みごとにルーマニヤをリードするという健闘は、地方勢のために万丈の気を吐いた。全北海道、全仙台、全群馬、全神奈川などはそれなりに健闘した。しかしどうしても寄せ集めといった感はまぬかれない。

9 実現せよ、ＯＢリーグ戦

東西の学生リーグのＯＢ間でぜひＯＢだけの公式戦を持つよう提案したい。初めのうちは二校ぐらいの連合チーム同士でもよい。少しでも多くハンドボールの第一線競技人口を維持すること。これがＯＢに課せられた責任である。

10 女子の躍進

女子界は相変らずの一年であった。わずかに熊本商大クラブの台頭と、高校勢のレベルが上がってきたことの二点がトピック。これは女子部門が男子部門に比べて試合数が少いことと、大学チームが五指に満たないこと、一般ＯＧクラブが練習不足なことなどが原因となっている。そろそろ女子の方も国際試合をやらねば……という声が起きているときだけに少々心細い。ただ上位チームのせり合いは近年になく緊迫したものがあった。ことに国体では一般、高校両部門とも内容のある試合が多かったのはよかった。

個々のチーム名をあげるならば熊本商大ク、愛知紡績、大阪寝屋川クラブ、日体大(以上一般)、熊本市立高、半田高、栃木女高、井原高（以上高校）などが代表的な好チームである。

とくに栃木女子高は、全日本室内選手権準決勝で愛知紡績を破り、一躍その名を高めたのは記憶に新しい。

その愛知紡績だが、ことしは昨年のように楽な試合はひとつもなかった。初の三冠王成るかなどと騒がれたためにかえって実力以下の試合をしてしまった。全日本総合では熊本商大クラブに6—5、国体では寝屋川クラブに3—2と苦戦のすえ優勝した。往年ほどの鋭さがなくなったとみるのはヒガ目だろうか。しかしその実力はやはり女子界の最高峰を行くもので、全日本三連勝の偉業は大いに賞していい。

愛知紡績の対抗馬として昨年の室内大会いらい一躍クローズアップされた熊本商大クラブは順調な成長を見せた。国体三位、室内二連勝という成果をあげたが、熊本県の熱意を集約したようなのがこのチームである。名門の名に恥じぬ奮闘を示した大阪寝屋川クラブとともに女子界発展のためにさらに健闘を期待したい。このほか日体大(東京)、城北ク(静岡)、涌谷ク(宮城)、水海道ク（茨城）などが強味を見せていた。

11 中京商(男子)強し

ことしの中京商はすばらしかった。夏のインターハイで桜台高(高知)を破って連勝し、さらに熊本国体でも明石高(兵庫)を15—7で押えて優勝した。読売新聞から優秀チームとしてハンドボールを代表して表彰された。

36 年 度 日 程

▽第４回全日本学生選手権大会（６月28日～７月２日、大阪府豊中市服部競技場）

▽第12回全国高校選手権大会（７月30日～８月３日、富山県氷見市）

▽第13回全日本総合選手権大会（８月13日～17日、岡山県倉敷市）

▽第４回全日本教職員選手権大会（未定）

▽第11回全日本学生選抜東西対抗（９月10日か17日、名古屋）

▽第16回国民体育大会（10月８日～13日、秋田県）

▽第４回全日本学生王座決定戦（11月23日、東京）

▽第２回全日本実業団選手権大会（12月上旬、場所未定）

▽第８回全日本総合室内選手権大会（37年１月、横浜市）

新シーズン学生界展望 ①

関東 東海の巻

駒沢球治郎

室内を終ってほっとしたら、もう立春を過ぎていた。新しいフィールドシーズンの開幕が間近かになった。時の流れの早さに改めて驚く。いつもならネタ枯れの三月なのだがことしは世界選手権という大モノがある。ところで編集部の注文は『どう変ることしの学生界勢力地図』というのだ。気の早いことだが、とりあえず関東、東海両リーグをのぞいてみた。

関東

卒業生の痛手からみたら明大がいちばん被害(?)が少なく強そうである。FWのあまり変らない中大もよいという評判である。『法大を忘れてもらっちゃあ困る』という声も聞える。『いいや、なんといったって芝浦工大、日体大の争いは変りませんよ』というのももっともなことだ。リーグ八連勝を狙う芝工大と名門日体大が、ムザムザと退歩するようなことはないという考え方である。どれもみな一理ある。どこも強そうである。だからことしは例年以上におもしろいリーグ戦になりそうだ。またそうでなくちゃあいけない。ただでさえオリンピックの夢破れて沈み勝ちなんだから……。

でもドングリの背くらべのせり合いならしない方がよい。実力伯仲、文字通り群雄割拠であってほしいと思う。

まず八連勝を狙う**芝工大**だが、ことしのメンバーから山田主将をふくめバックス5人、FW2人計7人が抜ける。超一流のプレーヤーだっただけに大変である。昨春両宮原や服部らが抜けたときも同じように騒がれた。しかし全日本二連勝、同学生三連勝、関東学生リーグ七連勝をやってのけたのだ。だからことしも、そう心配はいらないと思いたいがどうもことしは危なっかしい。

福本、鷹見とGK2人が抜けるのも痛いし、村上、尾藤のFBコンビもいなくなる。佐藤、金山、北村、間といったFWが、勝倉、久保のバックスをどうカバーするかが問題だ。

日体大はGKの好守福田が抜けるほか、ここも久保田以下の守備陣とFW井上が卒業してしまう。しかし、青木（義）、川上、北山、栗山、河上、越前とFWの量に心配はない。この五人のうちだれかが井上級に成長すれば確かに〃本命〃であろう。

中大は井、沢辺、石井、磯村が抜けるが、大脇、平瀬のコンビが健在だ。バックスもようやく安定度を増してきた。いつも大きな期待をかけられながら裏切るチームだけに、かえって高い評価は禁物だろうか。いいやことしは大丈夫……だといい。

早大は昨年上出来だった。定期戦で関学を破ったのも特筆ものだった。それらはほとんど恵谷の奮闘によるもの。恵谷と吉田、それに北沢が抜ける。一度に大黒柱を三本倒されるようなものだ。長沢、平塚らの成長と、GK山田に大きな期待がかけられている。

おもしろいのは**法大**である。FB布川とFW宮野が抜けるだけである。昨秋久々に一部に返り咲いて五位になった。しかも得点力はリーグ三位。エース吉村が健在だし、一波乱起こす実力は十分である。気の早い話だが法大は春のリーグ戦よりむしろ夏の全日本学生が恐い。その不気味な地力を発揮するような気がしてならない。メンバーを見ると一本勝負に強そうな連中ばかり。昨秋六位の**明大**は、冒頭のべたようにFB佐藤が抜けるだけである。高田、横野、正岡、浅野、藤本のFWが不動なのは大きい。吉沢の成長も計算に入れてよい。となるとことしの明大は非常に高い実力を持つことになる。とくに夏の前に強いという定評があるから春の球界の話題として書き落とすワケにはいかない。優勝を狙える実力は十分備えている。整調さえうまく持って行けば、日体大、芝工大にひと泡吹かせることもできよう。大いに期待したい。

名門**教大**はことしあたり是非奮起してほしい。中野、深美、及川という三人を失う。とくに深美、及川のコンビのアナはそう簡単につかぬのではなかろうか。GK安田の成長が一つの楽しみだが、教大にとっては苦難のシーズンになりそうである。

今春から一部に返り咲いた**立大**は名門高校出の新星が多く、フレッシュな存在になりそうだ。久々に一部の上位さえ狙える力を備えている。ことしの立大には、かって全日本で覇をとなえたときのような復活を期待したい。二部ではやはり**慶大**ということになろうか。戦後初めて監督の交代が行なわれた。大久保新監督のもとに木本、諏訪、桜井、橋本といった連中が張り切ると名門の浮び上る日も遠くはなさそうだ。一つの課題はGK大塚兄のアナ。昨年メキメキ腕をあげた**順天堂大**や**東京学芸大**は指導者に恵れており、体育学部の学生が多い利点を生かせば待望の一部進出も可能。**防大**、**東大**はやや押され気味だが巻土重来を切望しておこう。

最近関東リーグで喜ばしいのは、二部のリーグ戦がひとところに比べてずっと充実して来たことである。二部各校の努力が実ったものである。

また地理的なハンディにもめげず、奮闘する**茨城大**や**武蔵工大**の成長が大いに楽しみだ。

東海

ことし一月末の第四回東海学生室内選手権で**中京大**が圧倒的な強味をみせて優勝した。昨年のこの大会に勝っていらい東海地方の学生タイト

ルは、中京大が完全に独占してしまった。このチームが脚光を浴び始めたのは、附属校の中京商が高校界で力を伸ばし始めてからである。そこの卒業生が中京大学に進学してきたからである。いまでは文字通り東海無双の強者になってしまった。これは個々の選手の実力が非常にすぐれているからであり、また愛知県というハンドボール王国に所属している点も見のがせない。期待されながら全日本選手権では過去二年とも一勝をもあげ得ずして敗退している。ことしはどうやら真価を問うシーズンになりそうである。メンバーは昨年とまるっきり変らず、しかも昨年のインターハイ優勝の中京商イレヴンから若干の進学が内定している。比較的弱いといわれていたデフェンス陣が強化されそうだ。チームの主力は両伊藤と羽上田の中京商トリオとFBの森川あたりだ。昨年一年生ながらあっぱれな活躍を見せたFW近藤、CH山田なども、今シーズンはさらに進歩をみせるだろう。事情が許すなら中京大は積極的に東西の諸大学と交流試合を行なうべきだ。東海地方の他校とのレベルの差がはっきりしすぎているだけに「お山の大将」になり兼ねない。それがこれまで期待されながら中央大会で力を出し切れなかったゆえんである。

中京大に比べ他のチームの実力はかなり落ちる。**名大**、**名工大**などはかなりの球歴を持つ名門である。現在中京大を監督している藤松博氏もかっての名工大の主将である。奮起を待ちたいところだが、ちょっと全国水準に届くまでには日がかかりそうだ。

昨秋のリーグで二位になった名工大はファイトはあるが、全般に未だアンバランスだ。むしろFW朱宮、庄田、GK竹田といった若手に優秀選手の多い名大がことしは上位に行けそうな状勢である。**岐阜大**は、今シーズンから一部に上ることになっており張り切っている。今一歩の力強さが欲しい。**愛知学芸大**も古いチームでFW谷野を中心にどこまでやるか興味であろう。このほか**静岡大**、**三重大**、**名市大**、**滋賀大**といったチームがある。これらのチームはいずれもそれぞれの地区で高校上位チームと同じぐらいの力倆だ。大学水準というものからみると残念ながらほど遠い。

しかしこうしたチームに望みたいのは中央大会にどしどし出て腕をみがこうという気力である。そうしたことが、また強いては東海学生界全般への発展になる。

（次回は関西、西日本、東北の巻）

注目集めるIHF総会（2月26 27日）

海外通信

オリンピック東京大会 ハンドボール復活問題

JOCがオリンピック東京大会の種目を十八種目に制限したことは、国内では一応妥当な線として落ち着いた。しかし、削られた四種目（ハンドボール、近代五種競技、カヌー、弓）の各国際連盟はこのJOCの決定を「日本の一方的な態度」として、かなり強硬な態度をとっている。ことしの五月、アテネで開かれるIOC（国際オリンピック委員会）総会ではかなりの〃波乱〃が予想される。

本誌編集部にはこうしたニュースの影響を受けて、「ハンドボールの復活」に対する問い合わせが日を追って来ている。本号の〃海外ハンドボール通信〃は、この問題に焦点をあわせてみよう。

▽…近代五種競技は日本ではなじみのうすい種目だが、西欧諸国では非常にさかんである。JOCが削った四種目のうちでは、もっとも問題の起るものと予想される。

ところで、海外ハンドボール界の動きとしてソビエト・スポーツ団体機関紙「ソビエト・スポーツ」に載った国際ハンドボール連盟会長ハンス・バウマン氏の〃発言〃がある。

それによると「日本でハンドボールが柔道より人気がなく国際的にも弱いということが、オリンピック種目から削減される十分な理由になるとは思えない。近くIOC委員とあってアテネのIOC総会で、問題を再検討するよう要求する」（共同）と伝えている。おそらくこのバウマン会長の発言は、ヨーロッパ各国のハンドボール協会の一致した意見であると思われる。

これを裏付けるように日本ハンドボール協会の高嶋理事長は「オリンピック種目からハンドボールを落したことについて、強い抗議を示している国があることは事実だ」（2月5日付ディリースポーツ大阪）といっている。また高嶋理事長は『世界選手権遠征のさい、バウマン氏とも会って、どのような考えを持っているか打診して来たい』といっている。

▽…一月十九日ローザンヌ発のAP電（共同）でIOCのオット・メイヤー書記長は、「オリンピック東京大会の競技種目に日本が提案したバレボール、弓、ハンドボールがはいることは考えられない」と発言しておきながら「ソビエト・スポーツ」によると、「弓とハンドボールを除いた東京オリンピック組織委員会の提案は不可解だ」と発言するなど実にあやふやな態度である。

メイヤー書記長はハンドボールに関しては「この種目を加えることは、国際ハンドボール連盟だけが主張していることである。オリンピック大会においても、1936年のベルリン大会いらい行はれていない」といったこともある。

▽…ここで、注目されるのは、やはりIHF（国際ハンドボール連盟）の動きであろう。

とくに、二月二十六、二十七日の両日ヨーロッパで（場所未詳）IHFの総会が開かれることになっている。当然オリンピック東京大会の種目問題が、主要議題の一つとなろう。IHFがどのような態度を打ち出すかは、非常に興味深いものがある。IHFの態度次第ではまだまだ、この問題は今後に尾を引く。

最後に種目の削減に直接タッチしたJOCは「外国の反響はいろいろあるらしいが、日本案は必ず通る」と強い自信を持っている。

地方だより

優勢な四日市勢

▽第三回三重県総合七人制選手権大会は一月十五日、津市の県立津女高で行なわれた。男子は本田技研、東芝三重など実業団をふくめ十六チーム、女子は四チームが参加、男子は四日市工高、女子は四日市高クラブが優勝した。

▽男子準々決勝
鵜森ク 9−7 大安ク
四日市商高 10−6 本田技研
四日市工高 12−5 東芝三重
三重大 11−8 四日市商OB

▽準決勝
鵜森ク 12−6 四日市商高
四日市工高 18−6 三重大

▽同決勝
四日市工高 10−8 鵜森ク

▽女子準決勝
津高ク 6−2 暁高
四日市高ク 13−1 津女子高

▽決勝
四日市高ク 17−3 津女子高

岐阜室内選手権
（男子）大垣農（女子）全大垣

▽第二回岐阜県総合室内選手権大会は一月二十二日、大垣市の大垣スポーツセンターで男子十、女子五チームが参加して行なわれた。
男子は高校チームの活躍が目立ち大学や一般チームなどを退けた大垣農高と加納高の間で優勝戦が行なわれたが大垣農高が勝ち女子はオール大垣が栄冠を獲得した。

▽男子一回戦勝者加納高、岐阜大
▽二回戦勝者　加納高、岐山高、岐阜ク、大垣農高

▽準決勝
加納高 15（11−7、4−5）12 岐山高
大垣農高 26（13−3、13−2）5 岐阜ク

▽決勝
大垣農高 13（7−4、6−6）10 加納高

▽女子一回戦勝者　オール大垣

▽同準決勝
オール大垣 10（2−1、8−1）2 加納高
大垣南高 7−0 大垣東高

▽同決勝
オール大垣 12（6−1、6−3）4 大垣南高

桜台高強し
愛知高校室内

▽愛知県高校室内ハンドボール選手権大会は一月二十九日松蔭高コートで行なわれ、男子は桜台高、女子は半田高が優勝した。

▽男子準決戦
桜台高 11−3 東海高
中京商 8−4 一宮高

▽決勝
桜台高 11（4−3、7−4）7 中京商

▽女子準決勝
半田高 8−4 稲沢高
名女院 10−1 一宮高

▽決勝
半田高 11（7−2、4−1）3 名女院

大阪クラブが優勝
大阪室内選手権大会

▽大阪総合室内選手権大会は一月六、七、十四日の三日間大阪府立体育会館で行なわれた。一般男子は大阪クラブ、一般女子は寝屋川クラブが予想通り優勝した。

▽一般男子準決勝
大阪クラブ 15（6−5、9−6）11 六陵クラブ
松ケ枝クラブ 13（7−5、6−3）8 高津クラブ

▽同決勝
大阪クラブ 19（10−4、9−6）10 松ケ枝クラブ

▽一般女子決勝
寝屋川クラブ 6（5−0、1−1）1 北水クラブ

また、十二月下旬行なわれた近畿中学総合体育大会ハンドボール競技は男子の部で、豊中五中が14−6で豊中二中を破り、女子の部で浜寺中が12−10で豊中二中を破ってそれぞれ優勝した。

× × ×

▽福岡県室内選手権大会（2月5日、小倉体育館）

▽一般決勝
小倉工高OB 26（8−6、18−4）10 愛球クラブ

中京大が二連勝
東海学生室内選手権大会
二位 名大　三位 岐大

▽第四回東海学生室内選手権大会は一月二十八、二十九の両日、愛知県岡崎市の愛知学芸大岡崎体育館で東海地方八大学が参加して行なわれた。予想通り中京大学が四試合で百十一点をあげるズバ抜けた攻撃力で問題なく昨年に続き二連勝した。なお試合は八チームをA・Bブロックに分けてリーグ戦を行ない、両ブロックの一位同士の対戦で優勝校が決められた。

▽Aブロック
愛知学大 8（3−4、5−2）6 静岡大
中京大 33（19−2、14−2）4 静岡大
岐阜大 7（3−4、4−2）6 愛知学大
中京大 34（15−1、19−2）3 岐阜大
岐阜大 10（3−2、7−5）7 静岡大
中京大 21（9−2、12−2）4 愛知学大
（Aブロック順位）①中京大②岐阜大③愛知学大④静岡大

▽Bブロック
名工大 15（6−3、9−5）8 三重大
名大 22（12−2、10−3）5 名工大
名大 17（13−0、4−0）0 名市大
名大 15（5−2、10−1）3 三重大
名工大 17（7−0、10−1）1 名市大
（Bブロック順位）①名大②名工大③三重大④名市大

▽三位決定戦
岐阜大 10（3−2、7−5）7 名工大

▽優勝戦
中京大 23（8−0、15−2）2 名大

中京商高を表彰

▽読売新聞社が各競技団体から推薦して決定する「日本スポーツ賞・部門別優秀賞」のうち、今年度のハンドボール部門は、協会の推薦で中京商業高校ハンドボール部（愛知県名古屋市昭和区川名山町）と決定、一月三十日東京で表彰された。中京商高は昨年、今年度と全国高校選手権に二年連続優勝、今年度は国体高校の部にも優勝し、文字通り〝高校日本一〟となった。特に常用する六人攻撃と六人守備は大学級といわれている。今年度主戦メンバーは次の通り。

監督 藤松 博（名工大OB）
マネ 鏡味 義行 3年
GK 奥本 義昭 3〃
FB 葛島 敏彰 3〃
FB 吉田 宗孝 3〃
HB 石田 雅昭 3〃
HB 都築 勝 3〃
HB 石川 光雄 3〃
FW 金田 純男 3〃
FW 杉本 真一 3〃
FW 森田 謙善 3〃
FW 深谷 忠 2〃
FW 近藤 善重 主 3〃
補欠 柴田 晴男 2〃
〃 坂野 進 2〃

速報！世界選手権欧州予選記録

国際ハンドボール連盟(スイス)から二月九日、日本ハンドボール協会に"国際公報"が届いた。これによると第四回七人制世界ハンドボール選手権大会欧州各グループの成績がくわしく報告されています。この記録はいずれも第一次リーグの成績です。

▽北部グループ
デンマーク 26—15 フィンランド
(35年11月16日、ナルスタエド)
デンマーク 34—24 フィンランド
(35年11月25日、ヘルシンキ)
デンマーク 22—13 ノルウェー
(35年11月27日、)

話題のチーム⑤

栃木女高の巻

インドア大会準決勝で栃木女高が愛知紡績を延長戦で破ったときはびっくりした。愛知紡は速攻、栃木は遅攻と全くタイプの違ったチーム。中盤戦でゆっくりとボールをキープし、FWの宇井さんにボールが渡ると見違えるようなローリングパス、鋭い突っ込みをみせた。なかなかスマートなチームである。しかしこのチームには大きなマイナスの面がある。監督の細井さんはそれをご存じかな。それはリードするとすぐ逃げ込みにはいる。つまり時間待ちである。熊本国体で熊本市立高と対戦したときは前半4—1とリードした。後半にはいるともう逃げ込みにかかった。この油断をうまく熊本につかれて20分間にわたり守勢に追いやられた。とどのつまりは逆転負け。こんどの決勝戦も熊本商大クラブ。監督は北川先生(熊本市立高)であり細井監督の手の中を十分知っている。栃木女は前半横井、宇井両嬢の活躍で4—3とリードしながら後半得意(?)の時間待ち戦法に出て熊本の逆襲を浴びた。栃木は国体といい、こんどのインドアといい同じことを二度も繰り返して優勝できなかった。細井さんは「攻撃は最大の防御なり」ということを知っているのだろうか。栃木女高は高校バスケット界のチャンピオン(浦和一女も強いが……)でもあり、バスケットの悪い面がときどき出てくるようだ。栃木を知るほとんどの人がこういっている。「ゲームが終ってからいくら選手に注意をあたえてもそれは無理。速攻、速攻でこんどは優勝してもらいたい」(写真は対愛知紡戦に秘策を練る栃木女チーム)

(注=この記録は国際連盟公報によるものだが、原文通りに訳すとデンマーク3試合。フィンランド2試合、ノルウェーが1試合です。公報のミスプリントと思います)

▽西部第1グループ
スペイン 12—12 スペイン
(35年10月29日、マドリード)
フランス 16—7 ポルトガル
(35年11月13日、ボルドー)
ポルトガル 18—16 スペイン
(35年11月20日、ポルト)
フランス 16—9 スペイン
(35年12月10日、パリ)
フランス 10—9 ポルトガル
(35年12月15日、ポルト)

▽西部第2グループ
オランダ 22—12 ルクセンブルグ
(35年12月17日、場所不明)
ベルギー 23—21 ルクセンブルグ
(36年1月6日、場所不明)
オランダ 26—12 ベルギー
(36年1月15日、場所不明)

▽中部第1グループ
スイス 14—11 オーストリア
(35年12月11日、ウイーン)
オーストリア 13—12 スイス
(36年1月7日、ベール)

▽中部第2グループ
ユーゴ 18—14 ハンガリー
(35年12月11日、ベルグラード)
ハンガリー 15—13 ユーゴ
(35年12月23日、ブタペスト)

▽東部第1グループ
チェコ 24—12 ポーランド
(35年12月11日、ワルシャワ)
チェコ 22—10 ポーランド
(36年1月11日、プラハ)

▽東部第2グループ
ソ連 12—9 ルーマニア
(36年1月5日、モスクワ)
ルーマニア 18—13 ソ連
(36年1月15日、ブカレスト)

この結果三月一日から行なわれる世界選手権大会第二次予選の出場チームが決まった。

▽デンマーク(北部グループ)
▽フランス(西部第1グループ)
▽オランダ(西部第2グループ)
▽スイス(中部第1グループ)
▽ユーゴ(中部第2グループ)
▽チェコ(東部第1グループ)
▽ルーマニア(東部第2グループ)

第一次予選に出場せず第二次予選に出場するチーム次の通り。

日本、アイスランド、ドイツ、ブラジル、スエーデン(前回の世界選手権優勝チーム)

× × × × ×

× × × ×

投書欄

一考すべき東京偏向

室内の全日本も第七回を数えた。早いものである。

先号の本誌が予想したようにこの大会の参加チーム数は大会始って以来の数である。しかし、大半が東京所属、つまり、地元チームであったということは、ただ数だけが多ければよいというものではない。そう手放しでよろこんでばかりはいられないと思う。

そそっかしい人がみれば東京選手権に他地区のチームが特別参加したみたいである。まあ、それほどではないにしろ、こうしたことが、いつまでも続くようだと、全日本というタイトルの権威がうすらぐ。

室内はフィールドに比べて大会の数は少いし、こうした状態を黙認しなければならぬ時期なことは判る。しかし、それにしても、東京地区以外のチームが〃来にくい〃理由が、なにかあるのではなかろうか。

こういった点で協会関係者に再考する余地が残されているような気がする。

【東京・村島　昭】

不備な〃日本代表チーム〃

世界選手権に日本チームが初参加するそうである。そしてそのメンバーも発表された。まあこれだけなら大した問題はないが、この大会が七人制だということで疑問を抱く点がある。

選ばれたメンバーはいずれもフィールドの技術を主にして選出されたとしか思えない。わたしはこうした選考に疑問を持つのである。

世界選手権に出ることがわかっていたならば、ことしだけ七人制のシーズンを変えることができなかったかどうか。

もしこうした不備（わたしはあえて不備という）のメンバーで世界選手権に出て不成績だった場合どうするか。

残念ながら今回の遠征メンバーは、泥ナワの感をまぬがれない。

【大阪・無名戦士】

☆係から……同じような投書がこのほかに、五通ありました。なお、どのような投書にも必らず氏名を明記して下さい。紙上匿名は自由です。

実業団プロに出身校を

▽過日広島で行なわれた実業団選手権のプログラムには選手の出身校がはいっていませんでした。なじみの薄い社会人チームも〇〇大のだれとか、××高のだれとかがわかるといろいろな意味でよいと思います。第二回大会からはぜひそうした配慮をして欲しいと考えます。

【広島　W・S生】

質問欄

問　一月の全日本室内選手権大会の女子で熊本商大クラブが二年連続優勝とありますが、昨年は熊本クラブが優勝しています。どういうわけでしょうか。（東京・伊藤幸子）

答　たしかにそうです。昨年の熊本クラブはその直後のチーム登録のとき熊本商大クラブとして正式に登録しました。選手も全くおなじです。ただチーム名が変っただけで内容は少しも変っていません。ですから熊本クラブも熊本商大クラブも同一チームとみていいわけです。（係より）

問　東京オリンピックの開催種目からハンドボールが除かれたが、国体の一般男子の部の参加チーム数を元通りにする考えはありませんか。（兵庫・A生）

答　全国理事会、全国評議員会で審議して決めるものです。ことしの秋田の国体は一般男子の参加チーム数は一月二十八日の全国評議員会で25チームと決まりました。高校は毎年夏のインターハイがあるので、国体は一般のチームをふやすのが理想的です。いちどに全国都道府県から一チームを出すということは、国体参加人員の関係でできません。事情の許す限りふやしたいと思います。（係より）

問　インドア大会は毎年一月の全日本総合室内選手権しかないのですか。（東京・渡辺和子）

答　全日本は一つしかありません。しかし地方ではさかんです。昨年十一月には熊本県室内大会があり、岐阜でもことしの一月二十二日に大垣市スポーツセンターでありました。冬季間はインドアが最適です。

問　全日本実業団選手権が十二月広島で開かれましたが、女子はどうしてできなかったのですか。（広島・一女性）

答　おはずかしい話ですが、愛知紡しかなかったのです。しかしことしは女子実業団チームが生れます。大崎電気(東京)レナウン(東京)、それに熊本から太洋デパートが誕生します。太洋デパートは熊本市内の優秀な高校生で結成されると思います。ことしから非常におもしろくなりそうです。大崎電気、レナウンの両チームがシーズンまでに間に合うといいのですが。

質問かんげい

ハンドボールに関することなら技術問題、記録なんでも結構です。宛先は住所、氏名(匿名可)、年令明記の上、ハガキで東京都千代田区神田駿河台、日本ハンドボール協会内機関誌編集部質疑応答係まで。

今月の問題

育てよ、アジアハンドボール界

―五輪種目不採用の一反省―

日韓戦、日中戦の実現を期待

ハンドボール界長い間の念願だったオリンピック東京大会の種目採用が、ついにお流れになった。オリンピック種目となるために文字通り全精力をかたむけていた協会関係者の悲嘆は察するにあまりある。なにもハンドボールはオリンピックだけのものではない。負け惜しみではなくこれは事実である。明日からのハンドボール界はさらにその発展を目ざしてがんばればよいのである。ある意味では、こんどの事態でハンドボール関係者の結束はますます固くなったとさえいってよいだろう。

だがオリンピック種目からはずされた理由が何んであるかは、深く追究し反省しなければならない。〝今月の問題〟として採りあげたいのは、『アジアにおけるハンドボールの普及』である。もしアジアにおいてハンドボールが盛んであったなら、この〝悲願〟は成就していたかもしれないと思うからである。

たとえそれがオリンピック種目採用につながらないとしても、アジアにハンドボールを普及させることは日本ハンドボール界の大きな使命といっていい。

一つの提案を行なおう――できるだけ早く、日韓対抗、日中対抗の二つの国際試合の実現に最大の努力を払うべきである。

韓国と中共でハンドボール競技が行なわれていることはすでに周知のことである。韓国については若干資料不足の点がないでもないが、中共については、すでにルーマニアチーム（昨年来日）からその実情を聞いている。日本が全敗したルーマニアチームに二勝しているところからその実力はあるていどはつかんでいる。

アジアにハンドボールを普及させるにはまず既存の勢力のバックアップが絶対に必要である。日韓戦、日中戦の実現はアジア諸国におけるハンドボール競技の芽生えの礎石として、これ以上のモノはないと思う。

韓国と日本のハンドボール界の関係は、戦前早慶両大学選抜連合チームが訪韓して韓国のハンドボール界の創設に貢献している。いわば日本は生みの親でもあり、それから二十年余。互いに技術の進歩を競い合うのはそれだけでも大きな意義があるというものであろう。

対日感情の問題からこれまでは最寄国でありながら互いにその交渉さえもなかった。近年は高校野球、サッカー、女子バスケットなどなごやかな交歓が行なわれている。ハンドボールもその現実は決してむずかしくはないはずである。

もし仮にこれらの国際試合が実現すれば三カ国によってアジアハンドボール連盟の結成も極めて簡単である。

協会ではあるていどこの二つの国際試合の実現に努力しているらしいが、掛け声ばかりに終らず是が非でもやり遂げて欲しい。

全日本選手権やその他全国的大会に両国の協会首脳者を招待するのも一つの手である。

アジアにハンドボールの盟友国があるということは、ヨーロッパチームの招へいにも大きな利点となろう。

それやこれやで、日本が中心となってアジアにハンドボールの芽を増やすことは、世界ハンドボール界のためにも大きなプラスである。

オリンピックの夢破れた日本ハンドボール界がその再起の第一歩として、アジアハンドボール界の結成に力を注ぐことは、だれも異論がないハズである。

× × ×

× × ×

ニュース スクラップ 新聞記事から

日本ユニヴァーシアード委員会は、十六日午後三時から、東京御茶の水の岸体育館で開かれたが、各国が昭和三十六年夏のソフィア大会に加えて欲しいと要望しているボート、柔道、**ハンドボール**、ボクシング、レスリング、自転車のうち、ボートは賛成するが、他は日本オリンピック委員会（JOC）の意見を聞いて返事することになった。（35年12月17日、各紙）

× × ×

ハンドボール協会では、今度の世界選手権大会の時、日本の大学で講義しながら、ハンドボールのコーチをしてくれるドイツ人を物色、適任者がいれば招く方針。そのほか高校、大学、一般の三つに分け、各五十人くらいの優秀選手を集め、十日間、年三回の強化合宿を独力で行う意向である。（1月29日、東京新聞）

▽…二月五日の新聞報道によるとソ連スポーツ団体機関誌「ソビエト・スポーツ」は『IOCオットメーヤー書記長は東京五輪大会組織委が開催種目からハンドボールを除いたのは不可解であると伝えている。

協会だより

日本ハンドボール協会は一月二十七日午前十時から台東体育館の会議室で全国評議員会を開いた。

（出席者）式場会長、高嶋理事長、的場、山岡、松本各常務理事、岡村、山田（計）（大阪）、町田（群馬）、箱崎（岩手）、入江（茨城）、藤田（八）（熊本）、佐田（兵庫）、名黒（広島）各理事

評議員＝清水（山梨）、保坂（秋田）、福島（宮城）、永山（岡山）、日野（福岡）、柳井（山口）、宮本（千葉）、森田（奈良）、馬場（大阪）、花房（兵庫）、川上（広島）、丸口（広島）

監事＝井田、山田（稔）

① 世界選手権大会のメンバーについて選考事情の質疑応答があった。

② オリンピック（東京）の開催種目からハンドボールがはずされたことについて高嶋理事長からくわしい説明があった。

③ 別項（23頁）のように第十六回国体（秋田）の参加チーム数を決めた。

④ 三十六年度のスケジュールを決めた（別項25頁）

⑤ 登録費の改正

⑥ 機関誌「ハンドボール」を協会が責任をもって編集することを高嶋理事長から報告があった。

⑦ 財政中間報告が山岡財務理事から報告。

⑧ 高嶋理事長が世界選手権に参加するので、その間の理事長代行を的場常務理事がする。

⑨ 役員改選は全日本チームが欧州から帰国したあとに行なう。

機関誌からのお願い

▽…いままで機関誌「ハンドボール」は日本スポーツ新聞社で印刷、配布をやっていましたが、いろいろな事情があって第5号からすべて協会でやることにしました。いままでは手違いがあって機関誌が手許に届かなかったことがしばしばあったようです。こんごはこんなことがないように十分注意します。第5号から購読されるハンドボールファンの方はどうぞ協会へ直接申し込んでください。

▽…いまのプランですと年四回（季刊）です。一部五十円、一年分二百円、送料八円切手四枚同封し、「東京都千代田区神田駿河台、岸体育館内　日本ハンドボール協会　機関誌ハンドボール」あてに送附してください。

▽…機関誌の内容は東京、大阪が中心となり勝ちなので、あなたの地方でハンドボールに関する小さなニュースでも結構ですから送っていただければ幸いです。機関誌としてはできるだけ地方のニュースがほしいのです。写真を送っていただければ使わせていただきます。あなたの地方のハンドボール大会や講習会の記事もほしいのです。

▽…機関誌を伸ばすためにはあなたがたの絶大なるご協力がどうしても必要です。一人でも多くの購読者をふやすことが大切なのです。ハンドボールファンの方にご連絡して読者をふやしてください。（的場）

編集後記

▽最初「第5号」は世界選手権大会終了後の三月中旬に発行する予定でのんびりしていたのです。ですからなにも準備せず、日本実業団、全日本インドアの記録を整理していただけでした。それが一月二十八日の全国評議員会を契機に式場会長、高嶋理事長から世界選手権大会に参加することだし、オリンピック種目からはずされたこともあるので、ひとつ景気をつけるために〃世界選手権特集号〃をつくろう「そして日本のハンドボール界でも機関誌を出しているということを世界の人たちに知らせよう」ということになった。正式に第5号を出すことを決めたのは二月一日。まず印刷能力を考えて二月十五日出来上りを目標において都内の印刷屋をかたっぱしからあたった。運よく岡村理事の知人が第一印刷にいるので無理をお願いして二月十五日完成を条件に印刷を引き受けてもらった。

▽…印刷の方は片がついた。こんどは原稿をいかにして集めるか。二月七日に原稿を全部印刷屋に渡さないと雑誌が出来ない。二、三両日に編集方針を決め、三日に原稿依頼。七日中に集めるという強行な日程を立てた。選手団にも原稿を依頼。大阪の壮行試合に行く車内で抱負を書いてもらった。NHKの杉山君にも電話連絡して原稿を依頼。杉山君から連日速達便で原稿が届き順調なすべり出し。昨年日本スポーツ新聞社を退社した佐内君がページの割りつけから印刷屋との交渉いっさいをやってくれたのでずい分助かった。わたしと杉山君、佐内君の三人でどうやら十五日出来上りの段取りとなってほっとひと安心。（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール　第五号
昭和三十六年二月[illegible]印刷　発行所　東京都千代田区神田駿河台[illegible]八
昭和三十六年二月十五日発行　日本ハンドボール協会　電話（251）九五一一～五　振替東京五八三四八番
編集兼発行人　的場益雄
定価五十円　（〒）八円